文化財サービス発掘調査報告書 第32集

# 植物園北遺跡発掘調査報告書

２０２４

株式会社　文化財サービス

1．調査地遠景（南西から・五山の送り火「妙」方面を望む）

2．調査地遠景（北西から・第13次、16次調査地方面を望む）

# 例　言

1　本書は、京都市左京区下鴨北芝町13、25番地で実施した、植物園北遺跡の発掘調査成果報告書である。（京都市番号　23S459）

2　調査は、共同住宅建設に伴い実施した。

3　現地調査は、開発事業者より株式会社文化財サービス（以下、「文化財サービス」という）に委託され、田邉貴教（文化財サービス）が担当した。

4　調査期間は令和６年２月16日～３月29日である。

5　調査面積は294㎡である。

6　本文・図中の方位・座標は世界測地系による。標高はＴ．Ｐ．（東京湾平均海面高度）である。

7　土層名および出土遺物の色調は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。

8　本書の執筆は田邉が行い、編集は田邉、野地ますみ、興梠千春（文化財サービス）が行った。

9　現地での記録写真撮影は田邉が行い、出土遺物の撮影は写房楠華堂（内田真紀子氏）に依頼した。

10　現地での重機掘削は、株式会社一誠建設に依頼した。

11　調査に係る資機材のリースおよび仮設工事は株式会社Soidに依頼した。

12　調査に係る資料は京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課が保管している。

13　発掘調査および整理作業の参加者は、下記の通りである。

〔発掘調査〕　菅田　薫、田中慎一、上田智也、吉岡創平（以上、文化財サービス）、作業員（株式会社京カンリ）

〔整理作業〕　望月麻佑、塩地宏行、多賀摩耶、森下直子、野地ますみ、興梠千春、神野いくみ、上野恵己、甲田春奈、下市紗耶香、内牧明彦、溝川珠樹（以上、文化財サービス）

14　出土遺物の年代観は、寺沢　薫・森岡秀人　『弥生土器の様式と編年　近畿編Ⅱ』木耳社　1990年
吹田直子　「山城における古墳時代初期前後の土器様相」『古墳出現期の土師器と実年代』財団法人大阪府文化財センター　2003年
平尾政幸　「土師器再考」『洛史　研究紀要　第12号』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2019年
中世土器研究会　『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社　1995年
に依った。

15　現地調査、整理作業において、下記の方から御教示をいただいた。記して感謝いたします。（敬称略）

伊藤淳史（京都大学）、國下多美樹（龍谷大学）、吉崎　伸（ＮＰＯ法人平安京調査会）

# 目　次


## 第Ⅰ章　調査の経緯

1　調査に至る経緯…… 1
2　調査の経過…… 1
3　測量基準点の設置と地区割り…… 3
4　整理作業・報告書作成…… 3

## 第Ⅱ章　位置と環境

1　位置と環境…… 5
2　既往の調査…… 5

## 第Ⅲ章　調査成果

1　基本層序…… 12
2　検出遺構…… 12
（1）第１面 …… 12
（Ⅰ）近世の遺構 …… 12
（Ⅱ）平安時代後期～末期の遺構 …… 13
（Ⅲ）古墳時代前期以降の遺構 …… 13
（2）第２面 …… 17
3　出土遺物…… 22
（1）遺構検出中出土遺物 …… 22
（2）第１面遺構出土遺物 …… 22
（Ⅰ）近世の遺構 …… 22
（Ⅱ）平安時代後期～末期の遺構 …… 23
（3）第３層出土遺物 …… 23
（4）第２面遺構出土遺物 …… 23

## 第Ⅳ章　まとめ

1　各面の検出遺構について…… 25
2　当調査区および周辺調査で確認された建物跡の時代推移…… 27
3　当調査区および周辺調査で確認された多角形プランの竪穴建物について…… 27
4　当調査区および周辺調査で確認された方形竪穴建物の真北に対する角度について…… 30

## 附章　本調査地にて出土した脇差および刀装具について…… 35

# 図版目次


巻頭図版 １．調査地遠景（南西から・五山の送り火「妙」方面を望む）
２．調査地遠景（北西から・第13次、16次調査地方面を望む）
図版 １　調査区北壁・西壁・南壁断面図（１：100）
図版 ２　第１面平面図（１：150）
図版 ３　土坑010・011、柱穴020平面・断面図（１：40）
図版 ４　第２面平面図（１：150）
図版 ５　竪穴建物002平面・断面図（１：80）
図版 ６　土坑067平面・立面図（１：20）
図版 ７　竪穴建物003平面・断面図（１：40）
図版 ８　出土遺物１（１：４）
図版 ９　出土遺物２（１：４）
図版 10　遺構　１．第１面全景（南から）
２．第１面全景（北から）
図版 11　遺構　１．第１面全景（上が東）
２．土坑010半裁状況（南から）
図版 12　遺構　１．土坑011完掘状況（西から）
２．柱穴020根石検出状況（南から）
図版 13　遺構　１．第２面全景（南から）
２．第２面全景（北から）
図版 14　遺構　１．第２面全景（上が東）
２．竪穴建物002全景（上が北）
図版 15　遺構　１．竪穴建物002全景（南から）
２．竪穴建物002全景（北西から）
図版 16　遺構　１．竪穴建物002内土坑067遺物出土状況（南西から）
２．竪穴建物002内土坑067遺物出土状況（北西から）
図版 17　遺構　１．竪穴建物002内溝066遺物出土状況（北東から）
２．竪穴建物002内溝066遺物出土状況（南東から）
図版 18　遺構　１．竪穴建物003全景（北から）
２．竪穴建物003全景（上が北）
図版 19　遺物　１．第１面　遺構検出中、溝001、土坑010・011、柱穴020、第３層出土遺物（土師器・須恵器・灰釉陶器・輸入白磁・染付）
２．第２面　竪穴建物002埋土、柱穴063、溝066出土遺物（土師器・石製品）
図版 20　遺物　１．第２面　土坑067出土遺物（土師器）
２．第２面　竪穴建物003埋土出土遺物（土師器・石製品）
図版 21　遺物　１．耕作土出土遺物（脇差刀身・ハバキ・鞘）
２．耕作土出土遺物（鍔）
３．耕作土出土遺物（縁金・切羽）

図版 22　遺物　　１．鞘赤外線スキャン画像１『□秀□』
２．鞘赤外線スキャン画像２
３．鞘赤外線スキャン画像３
４．鞘赤外線スキャン画像４

# 挿図目次

図１　調査地位置図（1：2,500）…… 1
図２　調査経過写真 …… 2
図３　調査区地区割り・基準点配置図（1：150）…… 4
図４　既往調査位置図１（1：5,000）…… 6
図５　既往調査位置図２（1：10,000）…… 7
図６　調査地周辺建物跡分布図（１：5,000）…… 28
図７　第13次・第16次調査合成図（１：600）…… 29

# 表目次

表１　既往調査一覧表 …… 9
表２　遺構概要表 …… 12
表３　遺物概要表 …… 22
表４　植物園北遺跡竪穴建物一覧表 …… 31
表５　遺物観察表 …… 33

# 第Ⅰ章　調査の経緯

## １　調査に至る経緯（図１）

調査地は京都市左京区下鴨北芝町13、25に位置し、植物園北遺跡の範囲内にあたる。当地において共同住宅の建設が計画され、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「文化財保護課」という）による試掘調査が実施された。その結果、古墳時代前期の遺構および遺物の存在が確認され、発掘調査を実施することとなった。調査は開発事業者から株式会社文化財サービスに委託された。

## ２　調査の経過（図２）

調査は2024年２月16日より現地作業に着手し、３月29日に全ての工程を終了した。調査区は文化財保護課の指示により北辺東西13.0ｍ、南辺東西11.0ｍ、南北25.0ｍに設定した。面積は294.0㎡である。

表土である現代耕作土を重機、床土層を人力により除去したところ、調査区北側にて地山層である褐色粘質シルト層を確認し、当該層を掘り込んで構築されている竪穴建物002を検出した。さらに当該遺構の南側において土師器片を含む遺物包含層を確認し、その上面で柱穴や土坑を検出したため、当層上面を第１面とした。第１面の遺構掘削および記録作業実施後、遺物包含層を除去し、

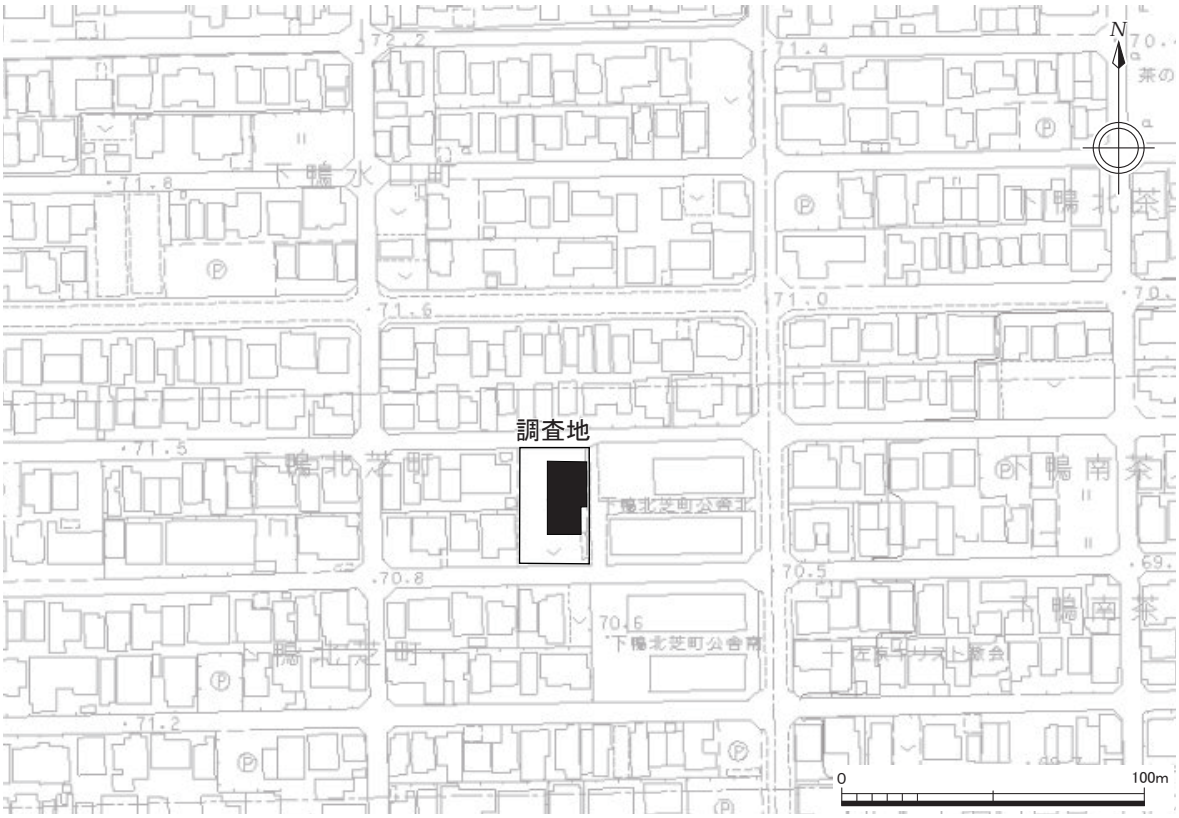



図１　調査地位置図（１：2,500）

1．調査前（南西から）

2．重機掘削作業（北から）

3．第１面発掘作業風景（北西から）

4．第２面発掘作業風景（南から）

5．竪穴建物002検出状況（北から）

6．検証委員視察（北から）

7．埋め戻し作業（南から）

8．調査完了後（南から）

図２　調査経過写真

第２面となる地山層上面で、柱穴群および竪穴建物003を検出した。第２面の遺構掘削および記録作業実施後、調査区西壁に沿って断割を行い、下層確認を行った。下層確認および調査区断面の記録作業実施後、埋め戻し作業を行い、調査を完了した。

なお、写真撮影機材は、35㎜フルサイズの一眼レフデジタルカメラ、35㎜白黒フィルムおよびカラーリバーサルフィルムを使用し、図面作成には手測りによる実測、トータルステーションによる図化、写真測量を併用した。

現地調査においては、適宜、文化財保護課の検査および指導を受けた。また、本調査の検証審査員である京都大学文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター助教伊藤淳史氏の現地視察・検証を受け、調査に対する助言を頂いた。

## ３　測量基準点の設置と地区割り（図３）

測量基準点は、VRS測量により調査地敷地内にＴ.１、Ｔ.２を設置した。基準点測量の成果は以下の通りである。

Ｔ.１　　X = -105,002.880ｍ　　Y = -20,997.635ｍ　　H = 70.599ｍ

Ｔ.２　　X = -104,975.296ｍ　　Y = -21,007.711ｍ　　H = 70.644ｍ

検出遺構および出土遺物の管理のため、調査区に対して３ｍグリッドを設定した。Ｙ軸にアルファベットを西から東に、Ｘ軸にアラビア数字を北から南に順に付し、両者の組み合わせで地区名とした。地区名は、グリッドの北西角を基準とした。

## ４　整理作業・報告書作成

現地調査終了後、整理作業および報告書作成を行った。整理作業は写真、図面の整理と出土遺物の整理を並行して実施した。遺物の整理は洗浄、接合、実測、トレース、復元、写真撮影を行った。報告書の執筆は調査を担当した田邉貴教、編集作業は野地ますみ、興梠千春が担当し、その他整理作業は当社社員が分担して行った。

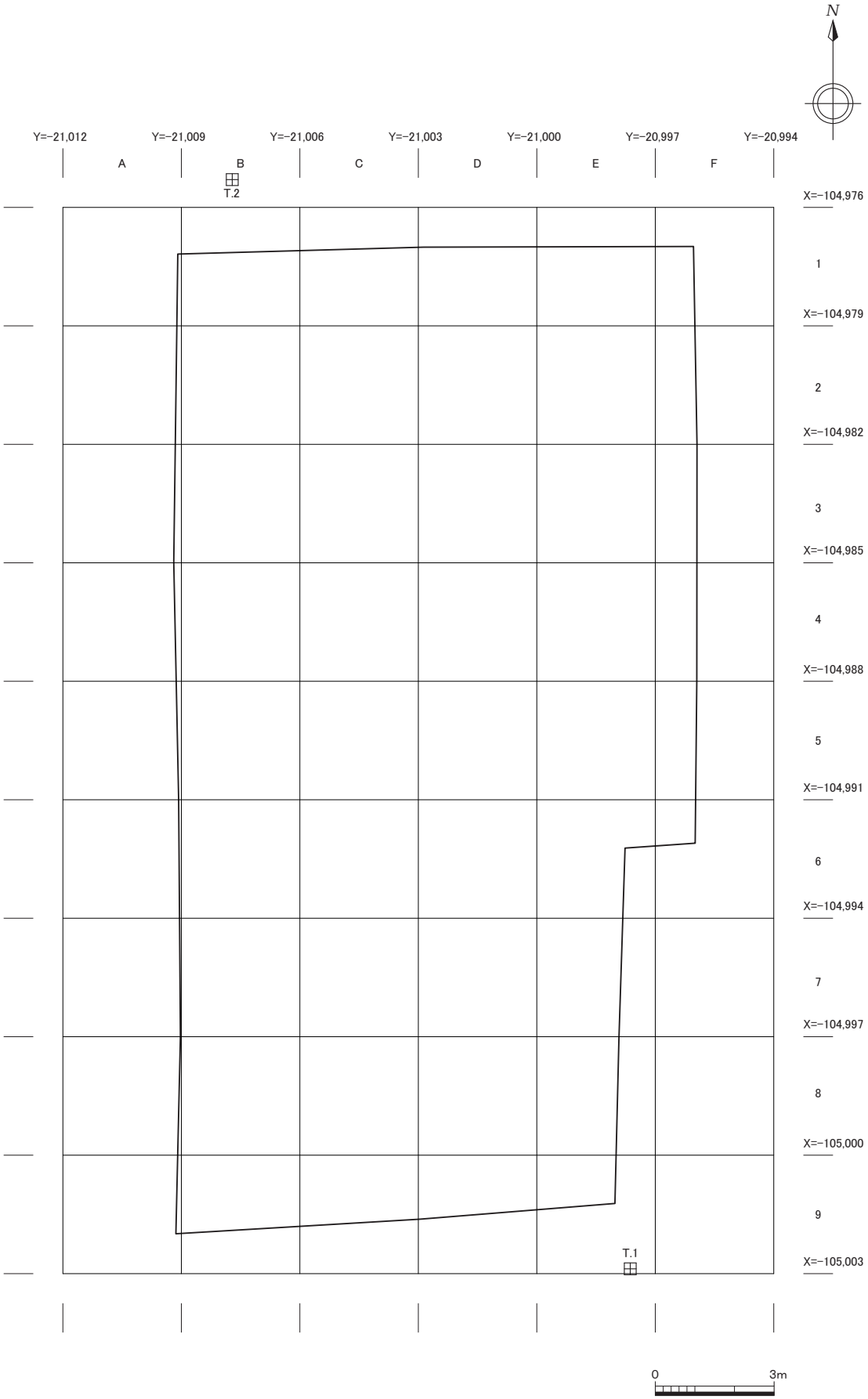



図３　調査区地区割り・基準点配置図（１：150）

# 第Ⅱ章　位置と環境

## １　位置と環境

今回の調査地である下鴨北芝町は京都盆地の北東部にあたり、賀茂川と高野川の合流地点から北に広がる逆三角形状の平地に位置する。また、調査地の北には直線距離で430ｍの位置に深泥池が存在する。この辺り一帯は賀茂川が北山山間部から平野部へ流れ出て形成された扇状地である。また、上賀茂神社から現在の府立植物園を経て下鴨神社へと至る乙井川が近世まで存在したことが、『元禄十四年実測京都地図』から判り、「明治22年京阪地方仮製二万分の一地形図」にもその痕跡が描かれている。

当地は古代から中世にかけて上賀茂神社の社領である「上賀茂六郷」の一つ、岡本郷であった。近世には蓼倉郷下鴨村となったが、明治に入り愛宕郡下鴨村となり、大正７年に京都市上京区に、昭和４年には左京区に編入され現在に至る。

今回の調査地が含まれる植物園北遺跡は弥生時代から平安時代にかけての集落遺跡で、北端は神宮寺山の南裾、南端は植物園を含む京都府立大学の北側、東端は宝ヶ池公園南側、西端は上賀茂神社西側という大規模な遺跡である。また、遺跡範囲内には平安時代前期の芝本瓦窯跡を含み、遺跡範囲の南端は平安時代の集落遺跡である下鴨半木町遺跡と重複する。

参考文献

菱田哲郎　「植物園北遺跡から見た上賀茂の古代」『京都を学ぶ【洛北編】』京都学研究会　2016年

下中邦彦　「京都市の地名」『日本歴史地名大系27』平凡社　1979年

## ２　既往の調査（図４・５、表１）

調査地周辺で行われた調査としては、ノートルダム女子大学の新校舎建設に伴う1990年、2012年の調査（37・２）、東側の共同住宅等の建設に伴う2007年、2013年、2022年の調査（33・36・32）、医療施設建設に伴う1990年の調査（23）、北山ふれあいセンター建設に伴う2007年の調査（７）、府営公舎建設に伴う1993年、1995年の第13次・第16次調査（10・９）、京都コンサートホールの建設に伴う1991～1992年の調査（18）、歴彩館建設に伴う2011年、2012年の調査（17）が挙げられる。

ノートルダム女子大学の新校舎建設に伴う調査では、古墳時代初頭～後期までの竪穴建物が32棟、その東側の共同住宅等に伴う調査では、古墳時代初頭～後期の竪穴建物が15棟検出されている。医療施設に伴う調査では、古墳時代前期の竪穴建物が９棟、北山ふれあいセンターの建設に伴う調査では、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物が９棟、府営公舎建設に伴う調査では、古墳時代初頭～前期の竪穴建物が10棟確認されており、調査地一帯には弥生時代後期～古墳時代にかけての大規模な集落が形成されていたことが判明している。

図４　既往調査位置図１（１：5,000）

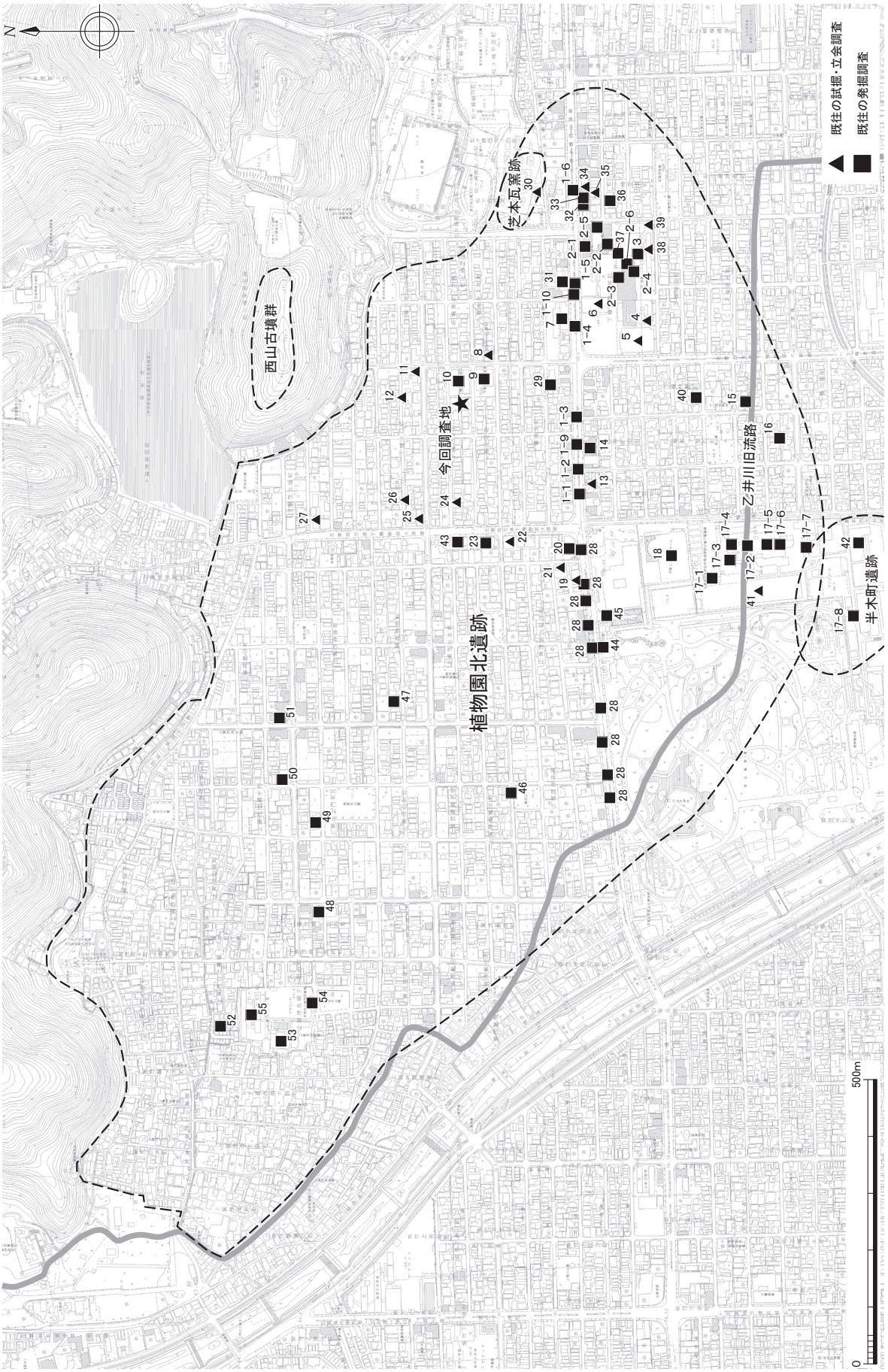



図5　既往調査位置図２（1：10,000）

京都コンサートホールおよび歴彩館建設に伴う調査では、平安時代前期の三面庇を持つ大型掘立柱建物が確認され、当地を開発し、治めた有力氏族の居館と推定される。

特に府営公舎建築に伴う調査は今回の調査地に隣接する場所であり、本調査地でも同時期の竪穴建物の存在が想定された。

参考文献

布川豊治　『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2022-6　財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2023年

表１　既往調査一覧表

| | 遺跡名 | 調査法 | 調査成果概要 | 掲載文献 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 弥生時代後期の竪穴建物１。古墳時代の溝１。中世の溝１。近世の溝１。 | 高橋　潔・高　正龍「植物園北遺跡」『平成４年度　京都市埋蔵文化財調査概要』　埋文研　1995 年 |
| 2 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 古墳時代の竪穴建物 16、掘立柱建物１、土坑 10、溝４。奈良時代の掘立柱建物２、土坑１。中世～近世の土坑７。 | 柏田有香ほか『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-24　埋文研　2013 年 |
| 3 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 古墳時代前期の竪穴建物 1。 | 赤松佳奈「植物園北遺跡（10S134）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成 27 年度』京都市文化市民局　2016 年 |
| 4 | 植物園北遺跡 | 試掘 | 顕著な遺構無し。 | 「植物園北遺跡　No.15」『京都市内遺跡試掘調査概報　平成 14 年度』　京都市文化市民局　2003 年 |
| 5 | 植物園北遺跡 | 試掘 | 顕著な遺構無し。 | 「植物園北遺跡　No.43」『京都市内遺跡試掘調査概報　平成４年度』　京都市文化観光局　1993 年 |
| 6 | 植物園北遺跡 | 試掘 | 顕著な遺構無し。 | 「植物園北遺跡　No.11」『京都市内遺跡試掘調査概報　平成 15 年度』　京都市文化市民局　2004 年 |
| 7 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物９、土坑７。飛鳥時代の溝１。 | 平田　泰・モンペティ恭代『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-1　埋文研　2007 年 |
| 8 | 植物園北遺跡 | 試掘 | 古墳時代前期の竪穴建物１、掘立柱建物１、溝１、土坑２。 | 馬瀬智光「植物園北遺跡　No.63　No.64　No.65」『京都市内遺跡試掘調査概報　平成６年度』　京都市文化観光局　1995 年 |
| 9 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 弥生時代後期末～古墳時代初頭の竪穴建物４、集石遺構２。古墳時代前期の竪穴建物２、土坑６。 | 石尾政信・杉本厚典「植物園北遺跡第 16 次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報　第 70 冊』　府埋文　1996 年 |
| 10 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 弥生時代後期中頃～後半の竪穴建物１。弥生時代後期末～古墳時代初頭の竪穴建物２。弥生時代後期～古墳時代前期の土坑６。古墳時代初頭の集石遺構１。古墳時代前期の竪穴建物２。 | 岸岡貴英・長友朋子・杉本厚典「植物園北遺跡第 13 次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報　第 58 冊』　府埋文　1994 年 |
| 11 | 植物園北遺跡 | 立会 | 古墳時代前期の竪穴建物１、落込み１。 | 堀内寛昭「植物園北遺跡（05RH276）」『京都市内遺跡立会調査概報　平成 17 年度』京都市文化市民局　2006 年 |
| 12 | 植物園北遺跡 | 立会 | 古墳時代前期の竪穴建物１。 | 堀内寛昭「植物園北遺跡（05RH51）」『京都市内遺跡立会調査概報　平成 14 年度』　京都市文化市民局　2003 年 |
| 13 | 植物園北遺跡 | 立会 | 縄文時代中期の土坑１。弥生時代末期～古墳時代初期の竪穴建物１、掘立柱建物１。 | 高橋　潔「植物園北遺跡（96RH224）」『京都市内遺跡立会調査概報　平成８年度』京都市文化市民局　1997 年 |
| 14 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 時代不明の土坑１。 | 李　銀眞『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2016- 5　埋文研　2017 年 |
| 15 | 植物園北遺跡 | 立会 | 古墳時代後期の竪穴建物１。 | 吉本健吾「植物園北遺跡（06RH322）」『京都市内遺跡立会調査報告　平成 18 年度』京都市文化市民局　2007 年 |
| 16 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 飛鳥時代の竪穴建物１、掘立柱建物１、土坑２。 | 津々池惣一「植物園北遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告　平成 23 年度』京都市文化市民局　2012 年 |
| 17 | 植物園北遺跡・下鴨半木町遺跡 | 発掘 | 古墳時代前期の土坑２。古墳時代後期の竪穴建物１。飛鳥時代～奈良時代の竪穴建物６、土器棺墓２、土坑２、溝３。平安時代前期の竪穴建物１、掘立柱建物 21、柵列１、土坑１。平安時代中期の掘立柱建物１。中世の掘立柱建物２、大型土坑１。近世の流路１、溝１。 | 中川和哉・高野陽子・黒坪一樹・筒井崇史・牧田梨津子「植物園北遺跡」『京都府遺跡調査報告集　第 159 冊』　府埋文　2014 年 |
| 18 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 縄文時代の甕棺墓１。奈良時代の竪穴建物６、奈良時代～平安時代の掘立柱建物 16。 | 久世康博「植物園北遺跡」『平成３年度　京都市埋蔵文化財調査概要』　埋文研　1995 年 |
| 19 | 植物園北遺跡 | 試掘 | 奈良時代～平安時代の溝１。 | 馬瀬智光「植物園北遺跡　No.63　No.64　No.65」『京都市内遺跡試掘調査概報　平成６年度』　京都市文化観光局　1995 年 |
| 20 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 奈良時代～平安時代の掘立柱建物１。 | 百瀬正恒「植物園北遺跡」『平成９年度京都市埋蔵文化財調査概要』　埋文研　1999 年 |

| | 遺跡名 | 調査法 | 調査成果概要 | 掲載文献 |
|---|---|---|---|---|
| 21 | 植物園北遺跡 | 立会 | 飛鳥時代の竪穴状遺構１、溝状遺構１、落込み１。 | 近藤章子「植物園北遺跡（97RH202）」『京都市内遺跡立会調査概報　平成９年度』京都市文化市民局　1998 年 |
| 22 | 植物園北遺跡 | 立会 | 古墳時代前期の竪穴建物２。平安時代の溝１、土坑１。 | 吉本健吾・竜子正彦「植物園北遺跡（99RH18）」『京都市内遺跡立会調査概報　平成 11 年度』　京都市文化市民局　2000 年 |
| 23 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 古墳時代前期の竪穴建物９、土坑１、流路１。平安時代後期～鎌倉時代の掘立柱建物４。中世遺構の溝１、土坑１。 | 高橋　潔「植物園北遺跡」『平成２年度　京都市埋蔵文化財調査概要』　埋文研　1994 年 |
| 24 | 植物園北遺跡 | 立会 | 古墳時代前期の竪穴建物１。 | 「植物園北遺跡」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和 59 年度』　京都市文化観光局　1985 年 |
| 25 | 植物園北遺跡 | 試掘 | 古墳時代前期の竪穴建物３。溝１。奈良時代後半の竪穴建物１。 | 「植物園北遺跡」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和 60 年度』　京都市文化観光局　1985 年 |
| 26 | 植物園北遺跡 | 立会 | 古墳時代前期の竪穴建物４。 | 堀内寛昭「植物園北遺跡（02RH53）」『京都市内遺跡立会調査報告　平成 14 年度』　京都市文化市民局　2003 年 |
| 27 | 植物園北遺跡 | 立会 | 古墳時代前期の竪穴建物１。 | 吉本健吾「植物園北遺跡（06RH253）」『京都市内遺跡立会調査報告　平成 18 年度』京都市文化市民局　2007 年 |
| 28 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 縄文時代の甕棺墓１。弥生時代前期の柱穴。古墳時代後期の落込み１。飛鳥時代の柱穴。奈良時代～平安時代の溝状土坑１。 | 小森俊寛・長戸満男他「植物園北遺跡」『昭和 61 年度　京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研　1989 年 |
| 29 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 古墳時代前期の掘立柱建物１（１区）。 | 清水早織・熊井亮介「植物園北遺跡（18S272）」『京都市内遺跡発掘調査報告　平成 30 年度』　京都市文化市民局　2019 年 |
| 29 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 古墳時代前期の掘立柱建物１、土坑１（２・３区）。 | 布川豊治『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-11　埋文研　2019 年 |
| 30 | 植物園北遺跡・芝本瓦窯跡 | 立会 | 古墳時代の竪穴建物３ | 「植物園北遺跡」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和 59 年度』　京都市文化観光局　1985 年 |
| 31 | 植物園北遺跡 | 立会 | 古墳時代初頭の竪穴建物１。古墳時代以後の土坑１ | 奥井智子「植物園北遺跡（18S434）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　令和元年度』京都市文化市民局　2020 年 |
| 32 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 古墳時代の溝１。飛鳥時代の竪穴建物１、溝１、柱穴１。奈良時代～平安時代の掘立柱建物１。 | 新田和央「植物園北遺跡（19S614）」『京都市内遺跡発掘調査報告　令和２年度』京都市文化市民局　2021 年 |
| 33 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 古墳時代前期の竪穴建物２、溝１、土坑１。飛鳥時代の溝１。奈良時代の竪穴建物１。平安時代以降の溝１。 | 山本雅和「植物園北遺跡１（06S753）」『京都市内遺跡発掘調査報告　平成 19 年度』京都市文化市民局　2008 年 |
| 34 | 植物園北遺跡 | 立会 | 古墳時代の竪穴建物２、土坑 | 辻　裕司・田中利律子「植物園北遺跡（12RH260）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成 24 年度』　京都市文化市民局　2013 年 |
| 35 | 植物園北遺跡 | 立会 | 古墳時代の竪穴建物６、柵１、土坑１、柱穴１。 | 吉崎　伸「植物園北遺跡（06RH234）」『京都市内遺跡立会調査報告　平成 18 年度』京都市文化市民局　2007 年 |
| 36 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 古墳時代の竪穴建物４、溝１、柱穴。中世の土坑群 | 吉崎　伸「植物園北遺跡（11S326）」『京都市内遺跡発掘調査報告　平成 24 年度』京都市文化市民局　2013 年 |
| 37 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 古墳時代前期の竪穴建物８。古墳時代後期の竪穴建物３、土坑群、柱穴群。 | 長谷川行孝『ノートルダム女子大学構内遺跡発掘調査報告 - 植物園北遺跡 -』ノートルダム女子大学　1991 年 |
| 38 | 植物園北遺跡 | 立会 | 古墳時代前期の竪穴建物１。 | 吉本健吾「植物園北遺跡（10RH291）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成 22 年度』　京都市文化市民局　2011 年 |
| 39 | 植物園北遺跡 | 立会 | 古墳時代前期の竪穴建物３、飛鳥時代の竪穴建物１。 | 吉本健吾「植物園北遺跡（11RH256）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成 23 年度』　京都市文化市民局　2012 年 |
| 40 | 植物園北遺跡 | 立会 | 古墳時代後期の竪穴建物１、掘立柱建物１、土坑１。 | 黒須亜希子「植物園北遺跡（21S686）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　令和４年度』京都市文化市民局　2023 年 |

| | 遺跡名 | 調査法 | 調査成果概要 | 掲載文献 |
|---|---|---|---|---|
| 41 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 奈良時代～平安時代の溝、土坑、柱穴。 | 中居和志「植物園北遺跡」『京都府埋蔵文化財調査報告書』京都府教育委員会　2011 年 |
| 42 | 半木町遺跡 | 発掘 | 平安時代～鎌倉時代の土坑、柱穴。 | 田代　弘「半木町遺跡発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報　第 98 冊』府埋文　2001 年 |
| 43 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 古墳時代初頭の竪穴建物２、溝６。 | 影山美智与・江崎周二郎「植物園北遺跡発掘調査報告書」株式会社地域文化研究所 2020 年 |
| 44 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 古墳時代の溝、平安時代中期の溝状遺構、鎌倉時代以降の溝、土坑、柱穴。 | 長戸満男・小森俊寛「植物園北遺跡２」『平成元年度　京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研　1994 年 |
| 45 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 古墳時代前期の溝、掘立柱建物、柵、土坑、柱穴。 | 竹原一彦「植物園北遺跡第 11 次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報　第 54 冊』府埋文　1993 年 |
| 46 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 平安時代の土坑３。 | 久世康博「植物園北遺跡（２）」『昭和 57 年度　京都市埋蔵文化財調査概要』　埋文研 1984 年 |
| 47 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 鎌倉時代以降の道路。 | 家崎孝治・卜田健司『植物園北遺跡発掘調査概報　昭和 57 年度』　京都市文化観光局 1983 年 |
| 48 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 弥生時代後期の竪穴建物２、古墳時代前期の竪穴建物２、土坑、古墳時代後期の溝。 | 辻　裕司・木下保明『植物園北遺跡発掘調査概報　昭和 59 年度』　京都市文化観光局 1985 年 |
| 49 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 弥生時代後期～古墳時代後期の流路、古墳時代前期の竪穴建物、古墳時代中期の竪穴建物。 | 近藤章子・菅田　薫「植物園北遺跡」『平成 12 年度　京都市埋蔵文化財調査概要』　埋文研　2003 年 |
| 50 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 古墳時代中期の竪穴建物２、室町時代の土坑。 | 柏田有香『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013- 4　埋文研 2013 年 |
| 51 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 奈良時代の溝、土坑、平安時代の溝、土坑、柱列、掘立柱建物３。 | 柏田有香「植物園北遺跡２」『京都市内遺跡発掘調査報告　平成 19 年度』京都市文化市民局　2008 年 |
| 52 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 古墳時代前期の竪穴建物２、古墳時代後期の竪穴建物８、鎌倉時代以降の井戸、溝、柱穴群。 | 高　正龍ほか『植物園北遺跡発掘調査概報平成元年度』　京都市文化観光局　1990 年 |
| 53 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 弥生時代～古墳時代の流路、古墳時代の竪穴建物３、平安時代の掘立柱建物、鎌倉時代以降の井戸、土坑、柱穴。 | 久世康博･津々池惣一「植物園北遺跡Ⅰ」『平成５年度　京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研　1996 年 |
| 54 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 古墳時代の掘立柱建物２、自然流路、室町時代の土坑、柱穴。 | 鈴木廣司、津々池惣一『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-14 埋文研　2002 年 |
| 55 | 植物園北遺跡 | 発掘 | 古墳時代の竪穴建物１、平安時代の掘立柱建物１、鎌倉時代以降の土坑。 | 布川豊治『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2022- 6　埋文研 2023 年 |

埋文研→公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　府埋文→財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

# 第Ⅲ章　調査成果

## １　基本層序（図版１）

基本層序は６層に分けられる。

第１層は灰黄褐色粘質シルトからなる現代耕作土である。

第２層は褐灰色粘質シルトと褐色粘質シルトからなる近世以降の床土である。一部は削平により失われている。

第３層は黒褐色粘質シルトからなる遺物包含層である。古墳時代初頭～前期頃の土師器片を含み、以後の遺物は見られなかった。当層は第４層の直上に堆積しているが、第４層以下の地山層の隆起により、調査区北側で消滅する。その範囲は図版２に示した破線のラインの南である。当層上面において遺構を検出したため、第１面とした。

第４層は褐色粘質シルトからなる地山層である。第４層も第５層、第６層の隆起により調査区北西端で消滅する。当層上面において竪穴建物等の遺構を検出したため、第２面とした。

第５層は褐色粘質シルトからなる地山層である。小石・礫を多く含む。

第６層は暗褐色粘質シルトからなる地山層で、砂・小石・礫を多く含む。

## ２　検出遺構（表２）

今回の調査では、近世の区画溝、平安時代後期～末期の土坑、柱穴、古墳時代前期以降の柱穴、古墳時代初期の竪穴建物、柱穴を検出した。

表２　遺構概要表

| 時代 | 遺構 | 備考 |
|---|---|---|
| 近世 | 溝 001 | |
| 平安時代後期～末期 | 土坑 010・011、柱穴 020 | |
| 古墳時代前期以降 | 柱穴 004 ～ 009、012 ～ 019、021 ～ 033 | |
| 古墳時代初期 | 竪穴建物 002（溝 066、柱穴 062 ～ 065、土坑 067、068）、竪穴建物 003（溝 060、柱穴 061）、柱穴 034 ～ 059 | |

### （１）第１面（図版２、図版10～12）

#### （Ⅰ）近世の遺構

〔溝〕

**溝001**

Ｄ１～Ｄ９で検出した。規模は、南北長約24.3ｍ、東西幅0.50ｍ、深さは北端0.10ｍ、南端0.20ｍを測る。底面は丸みを帯びており、ほぼ一直線に伸びる調査区を南北に貫く溝である。北端と南端との底面の比高差は0.10ｍほどであり、南が低くなっている。埋土は灰褐色粘質シルトで礫を含む。18世紀～19世紀頃の所産と考えられる染付（４）、陶器が出土した。近世以降の耕作地に伴う区画の溝と考えられる。

（Ⅱ）平安時代後期～末期の遺構

〔土坑〕

**土坑010（図版３、図版11－２）**

Ｅ６・Ｆ６で検出した。規模は、東西長1.00ｍ、南北長1.00ｍ、深さ0.30ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の土坑である。柱穴015を切っている。埋土は褐色シルトで礫を含む。土師器皿Ａｃ（５）が出土した。４Ｂ段階に属し11世紀半ば～後半頃の所産と考えられる。

**土坑011（図版３、図版12－１）**

Ｆ５で検出した。規模は、東西長1.20ｍ以上、南北長1.20ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面楕円形の土坑である。埋土は黒褐色粘質シルトとにぶい黄褐色粘質シルトとの混じりで、小石を含む。土師器皿Ｎ（６）、Ａｃ（７）が出土した。４Ｂ段階に属し11世紀半ば～後半頃の所産と考えられる。

〔柱穴〕

**柱穴020（図版３、図版12－２）**

Ｅ３で検出した。規模は、東西長0.60ｍ、南北長0.70ｍ、深さ0.28ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。底面より根石と思われる円弧状の礫群を検出した。埋土は褐灰色粘質シルトで小石を含む。根石の下より土師器皿Ａｃ（８）が出土した。４Ｃ段階に属し11世紀後半～12世紀初頭頃の所産と考えられる。

（Ⅲ）古墳時代前期以降の遺構

〔柱穴〕

**柱穴004**

Ｅ１で検出した。規模は、東西長0.40ｍ、南北長0.40ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

**柱穴005**

Ｅ１で検出した。規模は、東西長0.40ｍ、南北長0.45ｍ、深さ0.30ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。古墳時代の土師器の細片が出土した。埋没時の混入と思われる。

**柱穴006**

Ｅ２で検出した。規模は、東西長0.30ｍ、南北長0.30ｍ、深さ0.16ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴007

Ｅ２で検出した。規模は、東西長0.35ｍ、南北長0.35ｍ、深さ0.28ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。古墳時代の土師器の細片が出土した。埋没時の混入と思われる。

柱穴008

Ｆ２で検出した。規模は、東西長0.40ｍ、南北長0.40ｍ、深さ0.26ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。古墳時代の土師器の細片が出土した。埋没時の混入と思われる。

柱穴009

Ｄ３で検出した。規模は、東西長0.25ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.06ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。竪穴建物002を切っている。埋土は褐灰色粘質シルトである。遺物の出土は無かった。

柱穴012

Ｅ５で検出した。規模は、東西長0.30ｍ、南北長0.30ｍ、深さ0.20ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴013

Ｅ５で検出した。規模は、東西長0.30ｍ、南北長0.30ｍ、深さ0.05ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴014

Ｅ５で検出した。規模は、東西長0.40ｍ、南北長0.40ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで礫を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴015

Ｅ５で検出した。規模は、東西長0.65ｍ、南北長0.60ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。柱穴016を切り、土坑010に切られている。埋土は黒褐色粘質シルトで礫、小石を含む。古墳時代の土師器の細片が出土した。埋没時の混入と思われる。

柱穴016

Ｅ６で検出した。規模は、東西長0.30ｍ、南北長0.30ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。柱穴015に切られている。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。古墳時代の土師器の細片が出土した。埋没時の混入と思われる。

柱穴017

Ｅ４で検出した。規模は、東西長0.30ｍ、南北長0.30ｍ、深さ0.04ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトと灰褐色粘質シルトとの混じりで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴018

Ｅ４で検出した。規模は、東西長0.40ｍ、南北長0.40ｍ、深さ0.04ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトと灰褐色粘質シルトとの混じりで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴019

Ｃ４で検出した。規模は、東西長0.40ｍ、南北長0.45ｍ、深さ0.04ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴021

Ｅ３・Ｅ４で検出した。規模は、東西長0.40ｍ、南北長0.40ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴022

Ｅ４で検出した。規模は、東西長0.30ｍ、南北長0.30ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物の出土は無かった。

柱穴023

Ｅ４で検出した。規模は、東西長0.45ｍ、南北長0.50ｍ、深さ0.06ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトと灰褐色粘質シルトとの混じりで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴024

Ｂ５で検出した。規模は、東西長0.40ｍ、南北長0.40ｍ、深さ0.05ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石、礫を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴025

Ｃ５で検出した。規模は、東西長0.40ｍ、南北長0.40ｍ、深さ0.07ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴026

Ｃ５で検出した。規模は、東西長0.40ｍ、南北長0.40ｍ、深さ0.07ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトと灰褐色粘質シルトとの混じりで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴027

Ｃ５で検出した。規模は、東西長0.40ｍ、南北長0.45ｍ、深さ0.08ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴028

Ｃ５で検出した。規模は、東西長0.40ｍ、南北長0.40ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴029

Ｂ８で検出した。規模は、東西長0.30ｍ、南北長0.40ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴030

Ｂ８で検出した。規模は、東西長0.25ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.06ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴031

Ｄ９で検出した。規模は、東西長0.30ｍ、南北長0.30ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は灰黄褐色シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴032

Ｆ３で検出した。規模は、東西長0.30ｍ、南北長0.30ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴033

Ｅ３で検出した。規模は、東西長0.35ｍ、南北長0.35ｍ、深さ0.05ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

第１面で検出した柱穴は、柱穴004～008、020、021、032、033が地山層である第４層から、柱穴012～019、022～031が第３層から掘り込まれている。これらの柱穴は、建物としてのプランを

復元することができなかった。埋土中から出土した遺物が土師器のみで須恵器を含まないこと、古墳時代初期～前期頃の遺物を包含する第３層を遺構ベース層としていることから、古墳時代前期以降の遺構と考えられる。

（２）第２面（図版４～7、図版13～18）

〔竪穴建物〕

**竪穴建物002（図版５、図版６、図版14－２～17）**

Ｂ１～Ｆ１、Ｂ２～Ｆ２、Ｂ３～Ｆ３の範囲で検出した。規模は、一辺が6.80ｍの方形に復元でき、真北に対し西に約45°の傾きがある。北隅部分は調査区外である。検出面から床面までの深さは0.20ｍで、埋土は２層に分かれる。第１層は灰褐色粘質シルトで、明赤褐色シルトブロックを含む。北西側は礫を多量に含み、埋立ての際に地固め目的で入れたものと思われる。第２層は黒褐色粘質シルトで、明赤褐色シルトブロックを含む。第１層、第２層とも埋立ての際に一括廃棄されたと思われる遺物を多量に含む。埋土を除去したところ、柱穴062、063、064、065、溝066、土坑067、068を検出した。また、竪穴建物の中央部分に、厚さ約0.05ｍを測る貼床の痕跡を確認した。

柱穴062はＤ１で検出した。規模は、東西長0.25ｍ、南北長0.30ｍ、深さ0.25ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで、土師器の細片が出土した。柱穴063はＤ２、Ｅ２で検出した。規模は、東西長0.35ｍ、南北長0.35ｍ、深さ0.40ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。柱穴064はＤ３で検出した。規模は、東西長0.30ｍ、南北長0.30ｍ、深さ0.35ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含み、土師器の細片が出土した。柱穴065はＣ２で検出した。規模は、東西長0.30ｍ、南北長0.30ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含み、土師器の細片が出土した。

柱穴062、063、064、065は竪穴建物002の主柱穴であるが、柱穴062－063、063－064の柱間はそれぞれ約3.2ｍあるのに対し、柱穴062－065の柱間は約2.0ｍであり、主柱穴のプランは方形を成してはいない。

溝066は壁際を巡る壁溝である。幅0.20～0.30ｍ、深さ0.10ｍで、壁際に沿って途切れることなく一周している。土坑067が位置する箇所は若干壁と共に外側に張り出しており、入口を意識したものと思われる。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。土師器の細片が少量出土したが、溝066埋没後に埋納されたと思われる遺物が出土している。Ｂ２では壺（19）、Ｃ１では小型器台（20）が出土した（図版17）。

土坑067（図版６、図版16）はＤ３、Ｅ３で検出した。２段構造であり、上段は長辺1.10ｍ、短辺0.87ｍ、深さ0.10ｍの平面長方形で底面は平坦である。下段は東西長0.65ｍ、南北長0.65ｍ、深さ0.65ｍの平面円形で、底面は丸みを帯びている。土坑067と竪穴建物002の壁との間には溝066が通るが、切り合うことはなく幅0.06m程度の境を設けている。埋土は上段が黒褐色粘質シルトで

小石を含む。下段が黒褐色粘質シルトで礫、小石を含み、当遺構は下段を貯蔵用、上段を板などの蓋で塞ぐための段とした貯蔵穴と考えられる。下段は埋め立て後に改めて掘削された痕が認められ、内部より土師器の甕（24・25）が出土したことから、埋納された可能性がある。さらに下段の埋土直上より土師器の甕（21）が１個体分出土し、上段底面からも小型器台（22）や鉢（23）などが出土した。すなわち、竪穴建物002の廃絶時、まず下段を埋めた後に再度掘削して土師器甕を埋納した後、上段に土師器甕、小型器台、鉢等を埋納しており、何らかの意図が感じられる。

土坑068はＤ２で検出した。規模は、東西長0.75ｍ、南北長0.80ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の土坑である。竪穴建物002のほぼ中央に位置し、一部に被熱痕が見られることから炉跡と考えられる。埋土は黒褐色粘質シルトで赤褐色の焼土ブロックを含み、土師器の細片が出土した。被熱痕は一部分であり、被熱による硬化も見られないことから、ごく短期間の使用だったと考えられる。

### 竪穴建物003（図版７、図版18）

Ｄ９、Ｅ８、Ｅ９で検出した。規模は、東西長2.15ｍ、南北長0.60ｍであり、北西隅の角部分にあたる。隅部の角度は125°の鈍角であることから、竪穴建物003の平面形は多角形と考えられる。検出面から床面までの深さは約0.3ｍで、埋土は３層に分かれる。第１層は黒褐色粘質シルトで黄褐色シルトブロックを含む。第２層は黒褐色粘質シルトで小石を含む。第３層は黒褐色粘質シルトで小石を含む。いずれも古墳時代の土師器片を少量包含していた。第３層は西端部分のみに分布し、西側から東側へ向かって斜めに堆積している。第２層はその影響を受けた形で西端部分だけが斜めに堆積している。埋土を除去したところ、溝060、柱穴061を検出した。

溝060は壁際を巡る壁溝である。幅0.30ｍ、深さ0.06ｍで底面は丸みを帯びている。底面では、壁面の崩落を防ぐ板材を留めていた杭痕と思われる小穴を８基検出した。埋土は黒褐色粘質シルトである。

柱穴061はＥ９で検出した。規模は、東西長0.30ｍ、南北長0.15ｍ、深さ0.40ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。柱穴061の南半分は調査区外である。埋土は黒褐色粘質シルトである。古墳時代の土師器の細片が少量出土した。主柱穴と思われる。

〔柱穴〕

竪穴建物に伴わない柱穴である。

### 柱穴034

Ｂ４で検出した。規模は、東西長0.20ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.05ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

### 柱穴035

Ｂ４で検出した。規模は、東西長0.20ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴036

Ｃ４で検出した。規模は、東西長0.20ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴037

Ｂ４で検出した。規模は、東西長0.20ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.15ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴038

Ｂ４、Ｂ５で検出した。規模は、東西長0.25ｍ、南北長0.25ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は灰褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴039

Ｂ５で検出した。規模は、東西長0.20ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.20ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴040

Ｂ５、Ｂ６で検出した。規模は、東西長0.30ｍ、南北長0.30ｍ、深さ0.20ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物の出土は無かった。

柱穴041

Ｂ６で検出した。規模は、東西長0.30ｍ、南北長0.25ｍ、深さ0.20ｍで、底面は丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石、炭化物を含む。古墳時代の土師器の細片が出土した。

柱穴042

Ｂ６で検出した。規模は、東西長0.30ｍ、南北長0.30ｍ、深さ0.20ｍで、底面は丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物の出土は無かった。

柱穴043

Ｂ６で検出した。規模は、東西長0.30ｍ、南北長0.30ｍ、深さ0.20ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。古墳時代の土師器の細片が出土した。

柱穴044

Ｂ５で検出した。規模は、東西長0.20ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を多く含む。遺物の出土は無かった。

柱穴045

Ｅ５で検出した。規模は、東西長0.35ｍ、南北長0.30ｍ、深さ0.20ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴046

Ｅ６で検出した。規模は、東西長0.20ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.15ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴047

Ｄ６で検出した。規模は、東西長0.15ｍ、南北長0.15ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴048

Ｅ６で検出した。規模は、東西長0.20ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.15ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。古墳時代の土師器の細片が出土した。

柱穴049

Ｄ６で検出した。規模は、東西長0.20ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴050

Ｄ６で検出した。規模は、東西長0.20ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。古墳時代の土師器の細片が出土した。

柱穴051

Ｄ６で検出した。規模は、東西長0.25ｍ、南北長0.25ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。古墳時代の土師器の細片が出土した。

柱穴052

Ｅ６で検出した。規模は、東西長0.25ｍ、南北長0.25ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物の出土は無かった。

柱穴053

Ｅ８で検出した。規模は、東西長0.20ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.15ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物の出土は無かった。

柱穴054

Ｃ７で検出した。規模は、東西長0.25ｍ、南北長0.30ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。古墳時代の土師器の細片が出土した。

柱穴055

Ｄ７で検出した。規模は、東西長0.20ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.17ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。古墳時代の土師器の細片が出土した。

柱穴056

Ｃ７で検出した。規模は、東西長0.20ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。古墳時代の土師器の細片が出土した。

柱穴057

Ｃ７で検出した。規模は、東西長0.20ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。古墳時代の土師器の細片が出土した。

柱穴058

Ｃ７で検出した。規模は、東西長0.20ｍ、南北長0.20ｍ、深さ0.10ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物の出土は無かった。

柱穴059

Ｂ８で検出した。規模は東西長0.20ｍ、南北長0.25ｍ、深さ0.15ｍで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物の出土は無かった。

第２面で検出した竪穴建物内以外の柱穴は、いずれも古墳時代初期～前期の包含層の下から検出し、複数の柱穴から古墳時代の土師器片が出土したことから、古墳時代初期と考えられるが、建物としてのプランを復元することはできなかった。

## ３　出土遺物

遺物はコンテナで９箱分出土した（表３）。多くが古墳時代の土師器片であり、竪穴建物の埋土、第３層、第１面遺構の埋土からである。第１面の土坑からは平安時代後期～末期の土師器が出土している。また、近世以降の溝および第２層からは、古墳時代末期の須恵器、平安時代前期の灰釉陶器、平安時代末期～鎌倉時代の輸入白磁、近世染付が出土している。

なお、重機掘削中に出土した脇差の刀身１振、鞘１点、刀装具５点（鍔１点・ハバキ１点・切羽２点・縁金１点）は附章にて報告する。

**表３　遺物概要表**

| 時代 | 内容 | コンテナ数 | Ａランク点数 | Ｂランク点数 | Ｃランク箱数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 古墳時代初期 | 土師器、石製品 | | 土師器 18 点、石製品２点 | | |
| 古墳時代末期 | 須恵器 | | 須恵器１点 | | |
| 平安時代前期 | 灰釉陶器 | | 灰釉陶器１点 | | |
| 平安時代後期～末期 | 土師器 | | 土師器４点 | | |
| 平安時代末期～鎌倉時代 | 輸入白磁 | | 輸入白磁１点 | | |
| 江戸時代 | 染付、金属製品、木製品 | | 染付１点、脇差刀身１点、鍔１点、刀装具３点、鞘１点 | | |
| 合計 | | ９箱 | 34 点（４箱） | ０点 | ５箱 |

＊コンテナ箱数は、整理段階で２箱増加した。

（１）遺構検出中出土遺物（図版８、図版19－１）

第１面の遺構検出中に、近世の床土層である第２層内から出土した遺物である。須恵器杯蓋（１）、灰釉陶器皿（２）、輸入白磁椀（３）が出土した。１は口径17.4㎝、残存器高2.0㎝。内面・外面ともロクロナデを施し、口縁端部に杯身を受けるためのかえりが付く。ＴＫ217型式に属し、７世紀半ば頃の所産と考えられる。２は底径6.8㎝、残存器高1.3㎝、外面から内面にかけてロクロナデ、底部に回転ケズリを施し、高台は貼り付けである。内面に灰釉を施す。９世紀～10世紀頃の所産と考えられる。３は底径6.6㎝、残存器高2.1㎝、内面はロクロナデ、外面は回転ケズリを施し、高台は削り出しによる。内面は全体的に、外面は高台脇まで施釉し、内面は重ね焼きのため蛇の目状に釉を剝ぐ。福建省近辺の製品で、12世紀末～13世紀の所産と考えられる。

（２）第１面遺構出土遺物

（Ｉ）近世の遺構

**溝001（図版８、図版19－１）**

染付の筒茶碗（４）が出土した。口径6.6㎝、残存器高3.6㎝。内面・外面とも呉須にて絵付け後、施釉する。外面は花を意匠したと思われる文様を描き、内面は口縁付近に二重の線を描く。瀬戸美濃系の陶胎染付と思われ、19世紀頃の所産と考えられる。

（Ⅱ）平安時代後期～末期の遺構

土坑010（図版８、図版19－１）

土師器皿Ａｃ（５）が出土した。口径10.6㎝、器高1.0㎝。口縁は強く屈曲して内傾し、端部は丸く仕上げる。口縁から内面にかけてヨコナデを施し、底部はオサエを施す。４Ｂ段階に属し、11世紀半ば～後半頃の所産と考えられる。

土坑011（図版８、図版19－１）

土師器皿Ｎ（６）、土師器皿Ａｃ（７）が出土した。６は口径15.8㎝、残存器高3.0㎝。口縁はやや外反し肥厚する。口縁から内面にかけてナデを施し、底部はオサエを施す。４Ｂ段階に属し、11世紀半ば～後半頃の所産と考えられる。７は口径11.6㎝、残存器高0.8㎝、口縁は強く屈曲して内傾し、端部は丸く仕上げる。口縁から内面にかけてヨコナデを施し、底部はオサエを施す。４Ｂ段階に属し、11世紀半ば～後半頃の所産と考えられる。

柱穴020（図版８、図版19－１）

土師器皿Ａｃ（８）が出土した。口径9.7㎝、器高1.2㎝。口縁は強く屈曲して内傾し、端部は丸く仕上げる。口縁から内面にかけてヨコナデを施し、底部はオサエを施す。４Ｃ段階に属し、11世紀後半～12世紀前半の所産と考えられる。

（３）第３層出土遺物（図版８、図版19－１）

土師器甕（９・10）が出土した。９は口径20.0㎝、残存器高4.8㎝。口縁は外反し、くびれ上部に僅かな段差を施し端部は丸く仕上げる。口縁から内面にかけてナデを施す。外面は摩滅のため、調整は不明瞭である。庄内式期の所産と考えられる。10は底径4.7㎝、残存器高2.6㎝。内面・外面ともナデを施し、底部は凹ませる。山城Ｖ-５様式の所産と考えられる。

第３層からは庄内式期までの土師器しか出土していないが、同じ庄内式期の土師器が出土した竪穴建物003の上層に当たるため、古墳時代初期～前期頃に整地された際に混入したものと思われる。

（４）第２面遺構出土遺物

竪穴建物002（図版８、図版９、図版19－２、20－１）

埋土上層から土師器甕（11）が出土した。11は口径13.2㎝、残存器高8.9㎝。口縁は外反し端部は丸く仕上げる。口縁はヨコナデを施し、体部はヒモ造りにて成形した後、内面はオサエ、外面はハケを施す。庄内式期の所産と考えられる。

埋土下層から土師器小型器台（12）・高杯（13）・台付鉢（14）が出土した。12は残存器高5.7㎝。内面はナデとヨコ方向のケズリ、外面はミガキを施し、円形のスカシを施す。庄内式期の所産と考えられる。13は残存器高7.5㎝。内面はナデを施し杯との接合部分はユビオサエを施す。外面は摩滅のため調整は不明瞭である。庄内式期の所産と考えられる。14は残存器高2.8㎝。内面・外面と

もナデを施し、高台部分は貼付のちユビオサエを施す。庄内式期の所産と考えられる。

床面から土師器甕（15）・脚付壷（16）・石製品（17）が出土した。15は口径14.0㎝、残存器高6.0㎝。口縁は外反し端部は丸く仕上げる。口縁はヨコナデを施し、内面・外面ともハケを施す。頸部内面はケズリを施す。庄内式期の所産と考えられる。16は残存器高7.1㎝。内面・外面ともナデを施す。底部に孔があり、一部に剥離痕があることから、脚を接続するための孔と思われる。庄内式期の所産と考えられる。17は全長27.4㎝、幅13.0㎝。厚さ7.6㎝、重量3700gの砂岩製で、表面は全面、裏面は一部使用痕がある。石皿のように使用された可能性が考えられる。

柱穴063から土師器甕（18）が出土した。18は残存器高10.0㎝。頸部はヨコナデを施し、体部内面はナデ、外面はタタキを施す。内面に当て具痕が残る。庄内式期の所産と考えられる。

溝066から土師器壺（19）、小型器台（20）が出土した。19は口径15.6㎝、底径3.8㎝。口縁は外反し端部はやや丸く仕上げる。口縁はヨコナデを施し、オサエのち横方向のハケ、外面は横方向のハケを施す。内面にユビオサエ痕が残る。底部はオサエを施し、やや凹ませる。庄内式期の所産と考えられる。20は底径10.7㎝、残存器高6.6㎝。内面・外面ともナデを施すが、摩滅のため不明瞭である。円形のスカシを４ヶ所施す。庄内式期の所産と考えられる。

土坑067上層から土師器甕（21）、小型器台（22）、鉢（23）、土坑067下層から土師器甕（24・25）が出土した。21は口径17.8㎝、残存器高21.5㎝、口縁は外反し端部はやや丸く仕上げる。口縁はヨコナデを施し、内面は横方向のハケ、外面は斜め方向のハケを施す。庄内式期の所産と考えられる。22は底径8.3㎝、残存器高4.7㎝、脚部端は丸く仕上げている。内面は横方向のミガキ、外面は縦方向のミガキを施す。庄内式期の所産と考えられる。23は口径10.6㎝、底径4.2㎝、器高5.7㎝、口縁は立ち上がり、端部は丸く仕上げる。口縁はヨコナデを施し、内面は横方向のハケ、外面は縦方向のハケを施す。底部は指によるツマミ出しとユビオサエにて台を成形する。庄内式期の所産と考えられる。24は口径16.6㎝、残存器高5.1㎝、口縁は外反し端部は丸く仕上げる。口縁はヨコナデを施し、内面・外面とも摩滅や剥離により調整は不明瞭である。庄内式期の所産と考えられる。25は口径17.4㎝、残存器高5.4㎝、口縁は外反し端部は丸く仕上げる。内面・外面とも摩滅により調整は不明瞭である。庄内式期の所産と考えられる。

### 竪穴建物003（図版９、図版20－２）

埋土上層から土師器甕（26）が出土した。26は口径14.7㎝、残存器高2.6㎝、口縁は外反し端部は丸く仕上げる。口縁はヨコナデを施し、内面はナデ、外面は斜め方向のハケを施す。庄内式期の所産と考えられる。

埋土下層より土師器小型丸底壷（27）、磨石（28）が出土した。27は底径2.6㎝、残存器高3.6㎝。内面は摩滅のため不明瞭、外面はハケのちナデを施す。庄内式期の所産と考えられる。28は全長5.4㎝、幅4.7㎝、厚さ4.4㎝、重量140.8gの砂岩製で、一部に使用痕がある。

# 第Ⅳ章　まとめ

当調査地は、弥生時代後期～平安時代までの集落遺跡である植物園北遺跡の範囲内に位置し、調査地の東側と南東側で行われた第13次調査、第16次調査（図７）において、弥生時代後期～古墳時代前期までの竪穴建物10棟を検出している。これらのことから、当調査地でも竪穴建物の存在が想定された。調査にあたり、第３層上面を第１面とし、その直下に堆積する地山層上面を第２面とした。ただし、第３層の直上に堆積する第２層から掘り込んでいる溝001も第1面の遺構として扱った。その結果、第１面では近世以降の溝、平安時代後期～末期の土坑、柱穴、古墳時代前期以降の柱穴を検出し、第２面では古墳時代初期の竪穴建物、柱穴群を検出した。以下、各面の遺構について述べる。

## １　各面の検出遺構について

〔第１面〕（図版２）

〔近世〕

近世の遺構としては溝001を検出した。幅0.50ｍの溝で傾きはほぼ無く、調査地を南北に通る。床土である第２層を掘り込む形で作られており、埋土中から18世紀～19世紀頃の染付が出土した。第２層からは18世紀頃の染付椀が出土しており、耕作地として利用されていた近世に区画の溝として掘られたものと思われる。

〔平安時代後期～末期〕

平安時代後期～末期の遺構としては、土坑010、011、柱穴020を検出した。土坑010、011は径約1.0ｍの土坑であるが、性格は不明である。柱穴020は径約0.6ｍで底面に根石と思われる礫群を検出した。各遺構からは、いわゆる「て」の字状口縁の土師器皿が出土しており、特に柱穴020では礫群の下から出土した。

なお、第13次調査では、平安時代後期頃と思われる掘立柱建物が２棟検出されており、柱穴020もこれらの掘立柱建物との関連を想定することも可能であるが、検出したのは１基のみであり、断言はできない。

〔古墳時代前期以降〕

古墳時代前期以降の遺構としては、28基の柱穴群を検出した。これらは径約0.3～0.4ｍの柱穴であるが、建物としてのプランを復元することはできなかった。遺物は少なく、細片ばかりであるが、土師器のみで須恵器等の遺物が見られないこと、古墳時代初期～前期頃までの遺物を含む層を掘り込んでいることから、古墳時代前期以降の遺構と考えられる。

以上のように第１面では平安時代後期～末期の土坑010、011、柱穴020を確認したが、鎌倉時代～室町時代の遺構は確認できなかった。第1面の直上に堆積する第２層は近世以降の床土であることから、中世では大きな土地利用はされなかったものと思われる。

〔第３層〕（図版１）

第１面を形成する遺物包含層である。第４層の直上に堆積するが、第４層以下が調査区北側で上昇しているため、竪穴建物002の手前で消滅する。庄内式期の土師器を包含し、それ以降の遺物は見られないことから、古墳時代初期～前期頃までに整地等により構築された層と思われる。

〔第２面〕（図版４）

古墳時代初期の遺構としては、竪穴建物２棟と26基の柱穴群を検出した。竪穴建物002は一辺約6.8ｍを測る大型の方形プランの竪穴建物であり、真北に対し西に約45°の傾きがある。壁に沿って壁溝を巡らし、入口と推定される部分はやや外側に張り出す。入口と推定される部分には２段の作りとなっている貯蔵穴があり、上段は方形、下段は円形の平面形を呈する。下段内部より土師器の甕が出土し、下段埋土直上より土師器甕、上段底面から小型高杯や小型器台が出土した。これらの遺物は、埋立て時に埋納されたものと思われる。竪穴建物002の中央部分は少し下がっており、そこに厚さ約0.05ｍの貼床を施し、その後、主柱穴と炉穴を構築している。炉穴は一部被熱痕が見られるものの、全体的な被熱の痕跡は見られないため、炉の使用はごく短期間だったと思われる。また、竪穴建物を拡張した痕跡や建て替え等による切り合いも見られないことから、竪穴建物002は短期間で廃棄され、埋め立てられたものと思われる。

竪穴建物003は一部の検出であったものの、隅部分の角度が125°の開きがあり、平面形は方形ではなく多角形と判断した。主柱穴の一部と壁溝を検出し、壁溝内には壁面の崩落を防ぐ板材を留めていた杭痕と思われる小穴を検出した。壁溝内に小穴を設けた竪穴建物は、ノートルダム女子大学の校舎建設に伴う調査（図６－１・14)、個人住宅建設に伴う調査（図６－11）でも確認されている。竪穴建物003は、平面プランと合わせて竪穴建物002とは異なるタイプの竪穴建物である。出土遺物は竪穴建物002、003とも庄内式期のものであることから、ほぼ同じ時期に造られ、同じ時期に廃絶したものと思われる。

竪穴建物に伴わない柱穴群は径約0.2～0.3ｍの柱穴であるが、建物としてのプランを復元することはできなかった。

竪穴建物003および柱穴群の上層は遺物包含層である第３層であるが、出土遺物は庄内式期までのものしか見られないことから、竪穴建物003および柱穴群の廃絶後、時間を置かずに整地（第３層）をされた可能性がある。

以上、今回の調査により、府営公舎建築の調査で確認された竪穴建物群の広がりを補完する結果を得ることができた。

## ２　当調査区および周辺調査で確認された建物跡の時代推移（図６・７）

今回の調査区の周辺で過去に行われた調査では、多くの竪穴建物が確認されている。特にノートルダム女子大学の校舎建設の調査（図６－１・７・８・14）および東側の住宅地の調査（図６－５・６・10・11・18）では、古墳時代初期～後期にかけての竪穴建物が46棟検出されている。さらにノートルダム女子大学北側の北山ふれあいセンター建設の調査（図６－13）で弥生時代後期～古墳時代初期の竪穴建物が９棟、当調査地に隣接する府営公舎建設の調査（図６－３・４、図７）で弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物が10棟、当調査地西の医療施設建設の調査（図６－２）で、古墳時代前期の竪穴建物が９棟確認されている。これらの調査成果から、当調査地一帯には弥生時代後期～古墳時代後期にかけての大規模な集落が展開されていたことが判明している。一方、当調査区の南西に位置する京都コンサートホールの調査（図６－20）および歴彩館の調査（図６－15）では、竪穴建物は、古墳時代後期のものが１棟のみの検出であったのに対し、飛鳥時代～平安時代のものが12棟検出されている。また、奈良時代の掘立柱建物が18棟、平安時代の掘立柱建物が31棟確認されており、中には三面庇の大規模な掘立柱建物も含まれる。これらのことから、弥生時代後期～古墳時代後期にかけては、植物園の北東から東の一帯が集落の中心であったものが、飛鳥時代以降は植物園の一帯が集落の中心地となり、平安時代に入ると、この一帯を治めた一族が居館を構えたと考えられる。

## ３　当調査区および周辺調査で確認された多角形プランの竪穴建物について（図６）

今回の調査で検出した竪穴建物は、古墳時代初期の方形と多角形の２棟である。そこで、当調査地と周辺で確認された竪穴建物を考察していきたい。

まず、今回の調査および周辺の調査で確認された竪穴建物の平面プランは、93棟中３棟が多角形、残りの90棟が方形である。弥生時代後期以降から集落が営まれた植物園北遺跡では竪穴建物の多くが方形の平面プランを採用し、奈良時代まで作られ続ける。一方で、上記のように多角形の平面プランを持つものが今回の調査と合わせて３棟存在する。京都市内では多角形の平面プランを持つ竪穴建物は大薮遺跡[(1)]、中臣遺跡第35次[(2)]・第56次[(3)]・第67次[(4)]・第70－４次[(5)]で確認されており、植物園北遺跡の例と合わせると８例となる。

大薮遺跡では弥生時代後期、中臣遺跡では古墳時代初期に比定される多角形平面プランの竪穴建物が確認されているが、いずれも少数である。植物園北遺跡の調査で確認された多角形の竪穴建物は、いずれも一部分の検出に留まり、正確な規模は把握できない。一方で、ノートルダム女子大学東の共同住宅の調査および大薮遺跡、中臣遺跡の調査で確認された多角形の竪穴建物は、同調査地および周辺の調査で確認された方形の竪穴建物よりも床面積の規模がやや大きい。多賀茂治氏は兵庫県播磨町の大中遺跡の竪穴建物を例に挙げ[(6)]、六角形など多角形を呈する規模の大きい竪穴建物は同遺跡内でも少数であることから、一家族の住居ではなく、集落の共同作業の場ではないかとする。また、大型化するにあたり主柱を増やす必要があるため、多角形という平面プランに

図６　調査地周辺建物跡分布図（１：5,000）

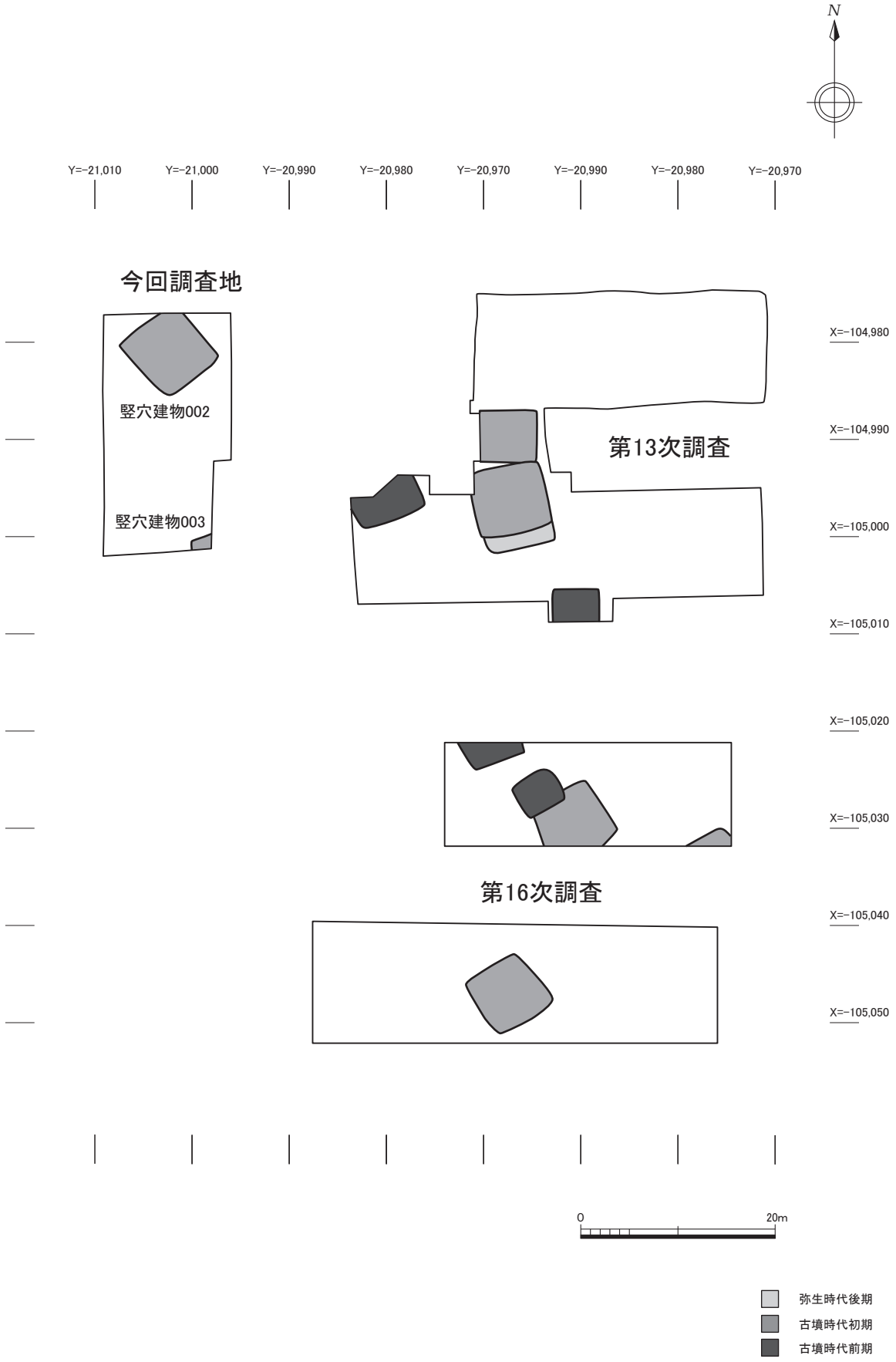



図７　第13次・第16次調査合成図（１：600）

なったのではないかと述べている。今回の調査で検出した竪穴建物003では、方形プランの竪穴建物002には見られない壁溝内に壁面の崩落を防ぐ板材を留めたと思われる杭痕が見られることから、竪穴建物002よりも規模の大きい平面プランを有していた可能性がある。その場合、竪穴建物003が中心的な役割を果たす施設であった可能性が考えられる。

## ４　当調査区および周辺調査で確認された方形竪穴建物の真北に対する角度について（図６・７、表４）

当調査区で検出した竪穴建物002は、真北に対しほぼ西に45°の傾きで構築されており、府営公舎建築の調査においても傾きが一致する同時期の方形竪穴建物が確認されている。このため、構築時期により真北に対しての傾きに統一性がある可能性を想定し、周辺の調査で確認された竪穴建物の構築時期と真北に対する傾きを図表にまとめた（表４）。結果、同時期でも傾きに統一性はなく、異なる時期でもほぼ同じ傾きで構築される竪穴建物が多くみられることから、構築時期による竪穴建物の傾きには統一性は見られないと判断した。

註

（１）西森正晃『大薮遺跡』京都市埋蔵文化財発掘調査報告2006-32　財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2007年

（２）伊藤　潔・網　伸也「中臣遺跡第35次調査」『昭和55年度京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2011年

（３）平方幸雄・辻　裕司「中臣遺跡第56次調査」『昭和58年度京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1985年

（４）平方幸雄・菅田　薫「中臣遺跡第67次調査」『昭和61年度京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1989年

（５）平方幸雄「中臣遺跡第70-４次調査」『平成３年度京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1995年

（６）多賀茂治「弥生時代竪穴建物のかたちと機能」『兵庫県立考古博物館研究紀要　第14号』兵庫県立考古博物館　2021年

参考文献

柏田有香・加納敬二・田中利津子・モンペティ恭代『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-24　財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2013年

岸岡貴英・長友朋子・杉本厚典「植物園北遺跡第13次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報　第58冊』公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター　1994年

石尾政信・杉本厚典「植物園北遺跡第16次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報　第70冊』公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター　1996年

※図６・７を作成するにあたり、以上の報告書に掲載されている平面図を参考にした。

## 表４　植物園北遺跡竪穴建物一覧表

| 番号 | 遺跡名 | 調査地 | 調査方法 | 棟数 | 形状 | 真北に対する西への傾き（方形） | 年代 | 調査主体 | 掲載報告書 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 植物園北遺跡 | 左京区下鴨南野々神町 | 発掘 | 11 | 方形 | 10°（２）20°（４）30°（１）40°（１）45°（１）50°（１）55°（１） | 古墳時代初期６棟<br>古墳時代前期２棟<br>古墳時代後期３棟 | ノートルダム女子大学 | 長谷川行孝『ノートルダム女子大学構内遺跡発掘調査報告－植物園北遺跡－』ノートルダム女子大学 1991 年 | 古墳時代初期（10°20°50°）<br>古墳時代前期（30°45°）<br>古墳時代後期（20°40°55°） |
| 2 | 植物園北遺跡７次 | 北区上賀茂松本町 | 発掘 | 9 | 方形 | 10°（１）15°（１）20°（３）30°（２）45°（２） | 古墳時代初期 | 市埋文 | 高橋　潔「植物園北遺跡」『平成２年度京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研　1994 年 | |
| 3 | 植物園北遺跡13次 | 左京区下鴨北芝町 | 発掘 | 5 | 方形 | 1～2°（1）<br>5°（１）22°（２）24°（1） | 弥生時代後期１棟<br>古墳時代初期４棟 | 府埋文 | 岸岡貴英・長友朋子・杉本厚典「植物園北遺跡第 13 次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報　第 58 冊』府埋文　1994 年 | 弥生時代後期（22°）<br>古墳時代初期（5°22°）<br>古墳時代前期（1～2°24°） |
| 4 | 植物園北遺跡16次 | 左京区下鴨北芝町 | 発掘 | 6 | 方形 | 10°（１）20°（１）25°（１）30°（１）40°（２） | 古墳時代前期 | 府埋文 | 石尾政信・杉本厚典「植物園北遺跡第 16 次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報　第 70 冊』府埋文　1996 年 | |
| 5 | 植物園北遺跡 | 左京区松ケ崎芝本町 | 立会 | 6 | 方形 | 5°（２）25°（１）30°（１）45°（２） | 古墳時代初期 | 市埋文 | 吉崎　伸「植物園北遺跡（06RH234）」『京都市内遺跡立会調査報告　平成 18 年度』京都市文化市民局　2007 年 | |
| 6 | 植物園北遺跡 | 左京区松ケ崎芝本町 | 発掘 | 4 | 方形・多角形 | 10°（１）1～2°（２）20°（１） | 飛鳥～奈良時代１棟<br>古墳時代前期３棟 | 市埋文 | 山本雅和「植物園北遺跡１（06S753）」『京都市内遺跡発掘調査報告　平成 19 年度』京都市文化市民局　2008 年 | 飛鳥～平安時代（10°）<br>古墳時代前期（1～2°20°） |
| 7 | 植物園北遺跡 | 左京区下鴨南野々神町 | 立会 | 1 | 方形 | 55° | 古墳時代初期 | 市埋文 | 吉本健吾「植物園北遺跡（10RH291）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成 22 年度』京都市文化市民局　2011 年 | |
| 8 | 植物園北遺跡 | 左京区下鴨南野々神町 | 立会 | 3 | 方形 | 1～2°（1）<br>35°（２） | 古墳時代初期２棟<br>古墳時代前期１棟 | 市埋文 | 吉本健吾「植物園北遺跡（11RH256）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成 23 年度』京都市文化市民局　2012 年 | 古墳時代初期（35°）<br>古墳時代前期（1～2°） |
| 9 | 植物園北遺跡 | 左京区下鴨北園町 | 発掘 | 2 | 方形 | 25° | 飛鳥時代 | 市埋文 | 津々池惣一「植物園北遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告　平成 23 年度』京都市文化市民局　2012 年 | |
| 10 | 植物園北遺跡 | 左京区松ケ崎芝本町 | 立会 | 2 | 方形 | 20°（１）30°（１） | 古墳時代初期～前期 | 市埋文 | 辻　裕司・田中利律子「植物園北遺跡（12RH260）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成 24 年度』京都市文化市民局　2013 年 | 古墳時代初期（20°）<br>古墳時代前期（20°） |
| 11 | 植物園北遺跡 | 左京区松ケ崎芝本町 | 発掘 | 4 | 方形 | 20°（１）40°（１）45°（１）不明（1） | 古墳時代前期 | 市埋文 | 吉崎　伸「植物園北遺跡（11S326）」『京都市内遺跡発掘調査報告　平成 24 年度』京都市文化市民局　2013 年 | |
| 12 | 植物園北遺跡 | 左京区下鴨南野々神町 | 立会 | 1 | 不明 | 不明 | 古墳時代前期 | 市埋文 | 赤松佳奈「植物園北遺跡（10S134）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成 27 年度』京都市文化市民局　2016 年 | |
| 13 | 植物園北遺跡 | 左京区下鴨北野々神町 | 発掘 | 9 | 方形 | 10°（１）25°（１）30°（２）35°（１）40°（３）45°（１） | 弥生時代後期<br>～古墳時代前期 | 市埋文 | 平田　泰・モンペティ恭代『物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007- 1　埋文研　2007 年 | |
| 14 | 植物園北遺跡 | 左京区下鴨南野々神町 | 発掘 | 16 | 方形・多角形 | 20°（１）25°（２）30°（３）40°（５）45°（３）50°（１） | 古墳時代初期 13 棟<br>古墳時代後期３棟 | 市埋文 | 柏田有香ほか『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-24　埋文研　2013 年 | 古墳時代前期初頭（20°25°30°40°45°）<br>古墳時代前期後半（40°45°）<br>古墳時代後半（30°40°） |
| 15 | 植物園北遺跡・下鴨半木町遺跡 | 左京区下鴨半木町 | 発掘 | 7 | 方形 | 7°（１）20°（１）30°（３）40°（１）50°（１） | 古墳時代後期１棟<br>飛鳥～奈良時代６棟 | 府埋文 | 中川和哉・高野陽子・黒坪一樹・筒井崇史・牧田梨津子・「植物園北遺跡」『京都府遺跡調査報告集第 159 冊』府埋文　2014 年 | 古墳時代後期（40°） |
| 16 | 植物園北遺跡 | 北区上賀茂松本町 | 発掘 | 2 | 方形 | 35°（１）不明（1） | 古墳時代初期 | 地域文化財研究所 | 影山美智与・江崎周二郎『植物園北遺跡発掘調査報告書』株式会社地域文化研究所　2020 年 | |

| 番号 | 遺跡名 | 調査地 | 調査方法 | 棟数 | 形状 | 真北に対する西への傾き（方形） | 年代 | 調査主体 | 掲載報告書 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 17 | 植物園北遺跡 | 左京区下鴨北野々神町 | 立会 | 1 | 方形 | 1～2° | 古墳時代初期 | 市文化財保護課 | 奥井智子「植物園北遺跡（18S434）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　令和元年度』京都市文化市民局　2020年 | |
| 18 | 植物園北遺跡 | 左京区松ヶ崎芝本町 | 発掘 | 1 | 方形 | 1～2° | 飛鳥時代 | 市文化財保護課 | 新田和央「植物園北遺跡（19S614）」『京都市内遺跡発掘調査報告　令和２年度』京都市文化市民局　2021年 | |
| 19 | 植物園北遺跡 | 京都市左京区下鴨神殿町 | 立会 | 1 | 方形 | 15° | 古墳時代後期以降 | 市文化財保護課 | 黒須亜希子「植物園北遺跡（21S686）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　令和４年度』京都市文化市民局　2023年 | |
| 20 | 植物園北遺跡 | 左京区下鴨半木町 | 発掘 | 6 | 方形 | 1～2° | 奈良時代 | 市埋文 | 久世康博「植物園北遺跡」『平成３年度　京都市埋蔵文化財調査概要』　埋文研　1995年 | |
| 21 | 植物園北遺跡 | 左京区下鴨北芝町 | 発掘 | 2 | 方形・多角形 | 45° | 古墳時代初期 | 文化財サービス | 田邉貴教『植物園北遺跡発掘調査報告書』文化財サービス発掘調査報告書第32集　株式会社文化財サービス　2024年 | 本報告書 |

## 表５　遺物観察表

| 掲載No | 器種 | 器形 | 調査区 | 面 | 出土遺構 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 厚(cm) | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 蓋杯 | １区 | １面 | 遺構検出中（２層内） | 17.4 | (2.0) | - | - | N7/0 灰白色 | |
| 2 | 灰釉陶器 | 皿 | １区 | １面 | 遺構検出中（２層内） | - | (1.3) | 6.8 | - | (釉) 7.5YR6/1 灰色<br>(胎) 5Y8/1 灰白色 | |
| 3 | 輸入白磁 | 椀 | １区 | １面 | 遺構検出中（２層内） | - | (2.1) | 6.6 | - | (釉) 10YR8/1 灰白色<br>(胎) N8/0 灰白色 | 福建省系 |
| 4 | 染付 | 筒茶碗 | １区 | １面 | 溝 001 | 6.6 | (3.6) | - | - | (釉) 呉須<br>(胎) N8/0 灰白色 | 陶胎染付<br>瀬戸美濃系か |
| 5 | 土師器 | 皿 | １区 | １面 | 土坑 010 | 10.6 | 1.0 | - | - | 10YR8/3 浅黄橙色 | 皿 Ac |
| 6 | 土師器 | 皿 | １区 | １面 | 土坑 011 | 15.8 | (3.0) | - | - | 10YR8/2 灰白色 | 皿N |
| 7 | 土師器 | 皿 | １区 | １面 | 土坑 011 | 11.6 | (0.8) | - | - | 10YR7/2 にぶい黄橙色 | 皿 Ac |
| 8 | 土師器 | 皿 | １区 | １面 | 柱穴 020 | 9.7 | 1.2 | - | - | 10YR8/2 灰白色 | 皿 Ac |
| 9 | 土師器 | 甕 | １区 | １面 | 第３層内 | 20.0 | (4.8) | - | - | 10YR8/4 浅黄橙色 | 庄内式期 |
| 10 | 土師器 | 甕 | １区 | １面 | 第３層内 | - | (2.6) | 4.7 | - | 10YR6/2 灰黄褐色 | 山城Ｖ－５ |
| 11 | 土師器 | 甕 | １区 | ２面 | 竪穴建物 002（埋土上層） | 13.2 | (8.9) | - | - | 10YR8/2 灰白色 | 庄内式期 |
| 12 | 土師器 | 小型器台 | １区 | ２面 | 竪穴建物 002（埋土下層） | - | (5.7) | - | - | 10YR8/2 灰白色 | 庄内式期 |
| 13 | 土師器 | 高杯 | １区 | ２面 | 竪穴建物 002（埋土下層） | - | (7.5) | - | - | 10YR8/4 浅黄橙色 | 庄内式期 |
| 14 | 土師器 | 台付鉢 | １区 | ２面 | 竪穴建物 002（埋土下層） | - | (2.8) | - | - | 10YR7/2 にぶい黄橙色 | 庄内式期 |
| 15 | 土師器 | 甕 | １区 | ２面 | 竪穴建物 002（床面直上） | 14.0 | (6.0) | - | - | (内) 2.5Y5/1 褐灰色<br>(外) 10YR8/1 灰白色 | 庄内式期 |
| 16 | 土師器 | 脚付壷 | １区 | ２面 | 竪穴建物 002（床面直上） | - | (7.1) | - | - | (内) 10YR7/1 灰白色<br>(外) 7.5YR6/4 にぶい橙色 | 庄内式期 |
| 17 | 石製品 | 石皿か | １区 | ２面 | 竪穴建物 002（床面直上） | 長 27.4 | 幅 13.0 | - | 7.6 | - | 砂岩製<br>重量 3700g |
| 18 | 土師器 | 甕 | １区 | ２面 | 柱穴 063（竪穴建物 002） | - | (10.0) | - | - | 2.5Y8/1 灰白色 | 庄内式期 |
| 19 | 土師器 | 壺 | １区 | ２面 | 溝 066（竪穴建物 002） | 15.6 | 25.4 | 3.8 | - | 7.5YR8/4 浅黄橙色 | 庄内式期 |
| 20 | 土師器 | 小型器台 | １区 | ２面 | 溝 066（竪穴建物 002） | - | (6.6) | 10.7 | - | 10YR8/2 灰白色 | 庄内式期 |
| 21 | 土師器 | 甕 | １区 | ２面 | 土坑 067（竪穴建物 002） | 17.8 | (21.5) | - | - | 10YR7/3 にぶい黄橙色 | 庄内式期 |
| 22 | 土師器 | 小型器台 | １区 | ２面 | 土坑 067（竪穴建物 002） | - | (4.7) | 8.3 | - | 7.5YR7/4 にぶい橙色 | 庄内式期 |
| 23 | 土師器 | 鉢 | １区 | ２面 | 土坑 067（竪穴建物 002） | 10.6 | 4.2 | 5.7 | - | 10YR7/4 にぶい黄橙色 | 庄内式期 |
| 24 | 土師器 | 甕 | １区 | ２面 | 土坑 067（竪穴建物 002） | 16.6 | (5.1) | - | - | 7.5YR8/4 浅黄橙色～<br>10YR6/2 灰黄褐色 | 庄内式期 |
| 25 | 土師器 | 甕 | １区 | ２面 | 土坑 067（竪穴建物 002） | 17.4 | (5.4) | - | - | 7.5YR8/4 浅黄橙色 | 庄内式期 |
| 26 | 土師器 | 甕 | １区 | ２面 | 竪穴建物 003（埋土上層） | 14.7 | (2.6) | - | - | 7.5YR8/2 灰白色 | 庄内式期 |
| 27 | 土師器 | 小型丸底壷 | １区 | ２面 | 竪穴建物 003（埋土下層） | - | (3.6) | (2.6) | - | 10YR7/3 にぶい黄橙色 | 庄内式期 |
| 28 | 石製品 | 磨石 | １区 | ２面 | 竪穴建物 003（埋土下層） | 長 5.4 | 幅 4.7 | - | 4.4 | - | 砂岩製<br>重量 140.8g |
| 29 | 鉄製品 | 脇差刀身 | １区 | | 耕作土中 | 長（刃＋茎）60.7 | 幅 2.3 | - | 厚（元重）0.7 | - | 磨上茎、<br>目釘孔３個 |
| 30 | 銅製品 | ハバキ | １区 | | 耕作土中 | 縦 3.0 | 横 2.3 | - | 0.9 | - | 金着二重ハバキ |
| 31 | 鉄製品 | 鍔 | １区 | | 耕作土中 | 縦 7.0 | 横 6.8 | - | 0.4 | - | 葵透かし文様<br>銘あり「越前住記内作」 |

| 掲載No | 器種 | 器形 | 調査区 | 面 | 出土遺構 | 口径（cm） | 器高（cm） | 底径（cm） | 厚（cm） | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 32 | 銅製品 | 縁金 | 1区 | | 耕作土中 | 縦 3.5 | 横 2.4 | - | 0.8 | - | 菊と牡丹の金銀装飾、魚子地 |
| 33 | 銅製品 | 切羽 | 1区 | | 耕作土中 | 縦 3.8 | 横 2.4 | - | 0.1 | - | |
| 34 | 銅製品 | 切羽 | 1区 | | 耕作土中 | 縦 3.8 | 横 2.4 | - | 0.1 | - | |
| 35 | 木製品 | 鞘 | 1区 | | 耕作土中 | 長 53.0 | 幅 3.3 | - | - | - | 差表側に墨書『□秀□』 |

# 附章　調査地にて出土した脇差および刀装具について

調査区内の重機掘削中、耕作土内より一振りの脇差の刀身と木製の鞘、鉄製の鍔、銅製のハバキ、切羽、縁金の刀装具一式が出土した。柄部分は腐食のため失われていたが、ハバキ、切羽、鍔、縁金は本来の刀身に付属した状態で出土した。柄頭は確認できなかった。鞘は半分に割れた状態で刀身とは別で出土したが、本来は鞘に刀身が収められた状態であったと思われる。

以下、刀身および刀装具について述べる。

１．刀身（29）（図版 21 － １）

刃部（上身）は、刃長 50.0 ㎝、反り 1.0 ㎝、元重 0.7 ㎝、先重 0.4 ㎝、身幅 2.3 ㎝。全体的に錆が出ているが、一部刃紋が確認でき互の目刃紋と思われる。地肌は不明。刀身に対し垂直方向に多数の傷があり、荒砥ぎをしたものと思われる。茎は茎長 10.7 ㎝、磨上の茎であり、茎尻の形状から慶長磨上と思われる。鑢目は勝手下り鑢。目釘孔は３個あり、うち１個は未貫通である。茎に銘は確認できないが、磨上茎のため本来存在した茎には銘が存在した可能性がある。

本来は江戸時代以前に作刀された２尺以上の打刀もしくは太刀だったと思われるが、江戸時代に脇差として使用するため１尺６寸７分にまで磨上げ短くしたものと考えられる。

２．ハバキ（30）（図版 21 － １）

縦 3.0 ㎝、横 2.3 ㎝、厚さ 0.9 ㎝。銅製の二重ハバキで、地金の銅に金を被せた金着ハバキと思われる。表面には斜め方向の鑢目の装飾を施す。刀身の錆により固着しているため、刀身から外すことはできなかった。

３．鍔（31）（図版 21 － ２）

縦 7.0 ㎝、横 6.8 ㎝、厚さ 0.4 ㎝。２枚の葵葉を上下に向い合せた葵透かし文様の鉄製の鍔である。葵文様の一部に塗金が残る。切羽台に「越前住記内作」の銘がある。記内は越前国の金工の一派で、寛永年間より幕末まで続いた。

４．縁金（32）（図版 21 － ３）

縦 3.5 ㎝、横 2.4 ㎝、高さ 0.8 ㎝。銅製で菊と牡丹の文様をそれぞれ片面ずつ打ち出し、金と銀の装飾を施す。肌は魚子地を施す。

５．切羽（33、34）（図版 21 － ３）

縦 3.8 ㎝、横 2.4 ㎝、厚さ 0.1 ㎝。銅製で片面に塗金を施す。縁に小刻を施し、一部に小柄を通す切り込みがある。２枚出土した。

６．鞘（35）（図版 21 － １、22）

長さ 53.0 ㎝、幅 3.3 ㎝、反り 0.8 ㎝。木製で鞘の半身同士の貼り合わせによる造りである。差表側に下緒を通す栗形を取り付ける凹み、差裏側に小柄を収める小柄櫃を施す。鞘の一部および小柄櫃の内部に鮫皮と思われるものが残存しており、本来は鮫皮を巻いた上に黒漆を塗り研ぎだした鮫鞘だったと思われる。差表側には墨書があり、赤外線によるスキャンの結果、『□秀□』

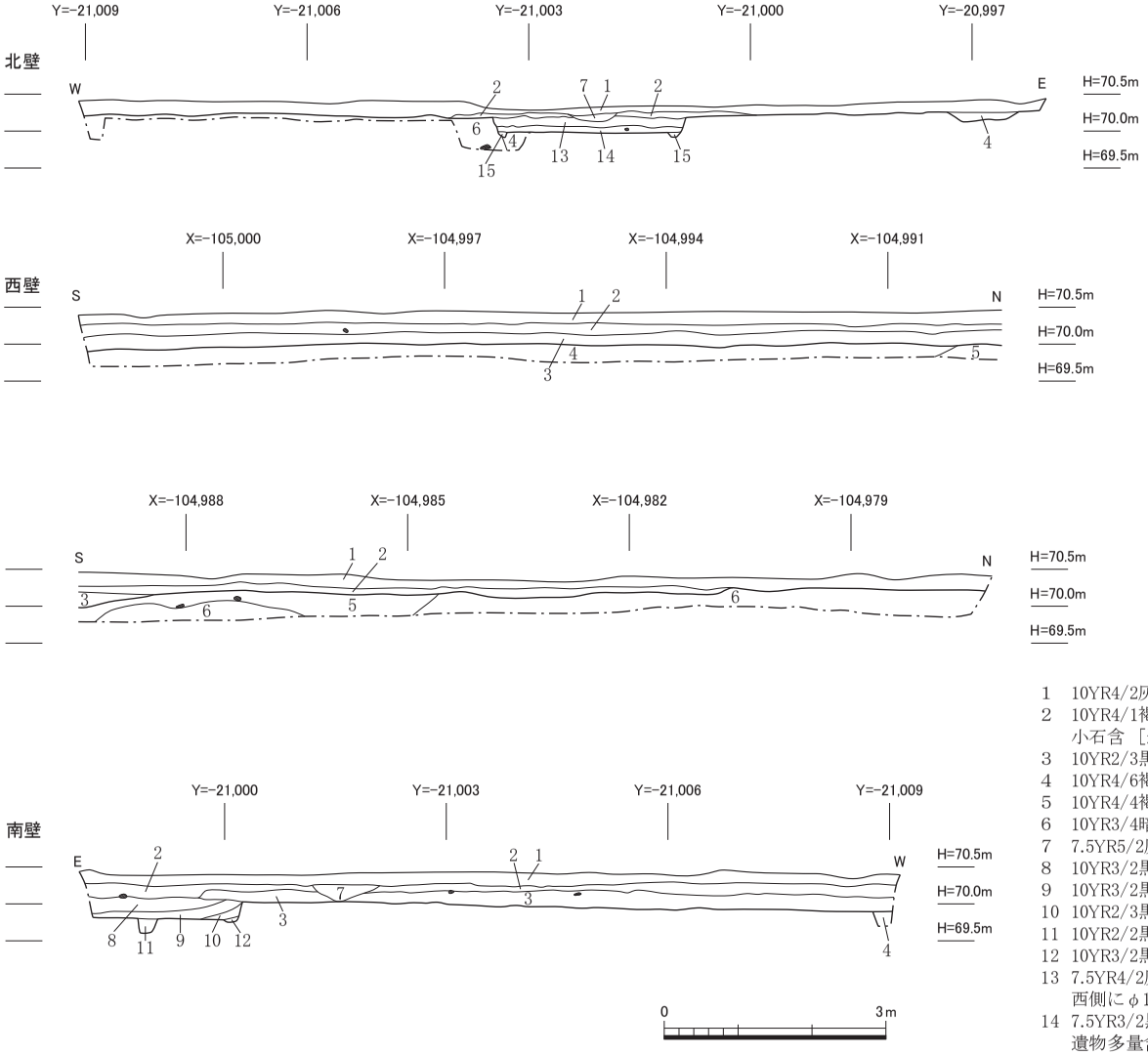
（□は判読不能）の３文字を確認することができた。鞘、栗形、小柄櫃を塞ぐ板はそれぞれ接着が取れ分割した状態で出土した。

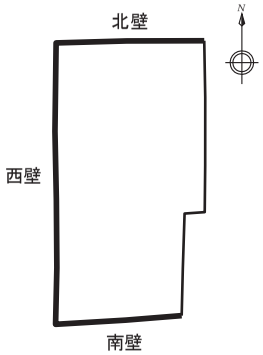
参考

東建コーポレーション株式会社　株式会社東通エィジェンシー「刀剣ワールド」

https://www.touken-world.jp/tips/10388/

# 図　　版

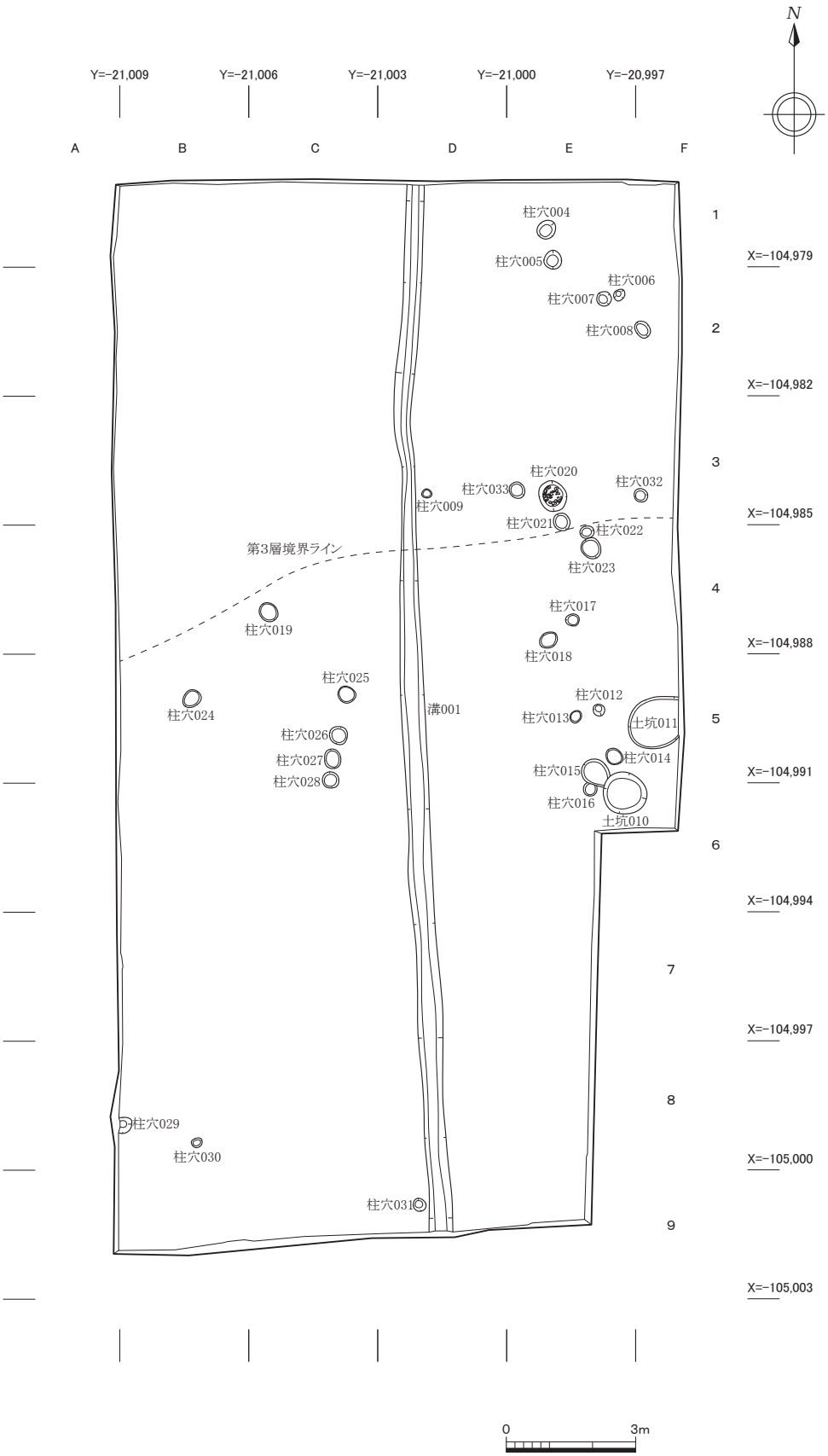



1　10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　小石含　［耕作土］
2　10YR4/1褐灰色粘質シルトと10YR4/6褐色粘質シルトとの混り
　小石含　［近世以降の床土］
3　10YR2/3黒褐色粘質シルト　小石・遺物少量含　［包含層］
4　10YR4/6褐色粘質シルト　小石少量含
5　10YR4/4褐色粘質シルト　小石・礫多量含
6　10YR3/4暗褐色砂を多く含む粘質シルト　小石・礫多量含
［地山層］
7　7.5YR5/2灰褐色粘質シルト　礫含　［溝001(近世)］
8　10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR5/6黄褐色シルトブロック・遺物少量含
9　10YR3/2黒褐色粘質シルト　小石含
10　10YR2/3黒褐色粘質シルト　小石含
11　10YR2/2黒褐色粘質シルト　遺物含　［柱穴061］
12　10YR3/2黒褐色粘質シルト　［溝060］
［竪穴建物003］
13　7.5YR4/2灰褐色粘質シルト　7.5YR5/8明赤褐色シルトブロック含
　西側にφ10cm大の礫多量含　全体的に遺物多量含　［埋土上層］
14　7.5YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR5/6明赤褐色シルトブロック・小石含
　遺物多量含　［埋土下層］
15　10YR2/2黒褐色粘質シルト　小石含　［溝066］
［竪穴建物002］

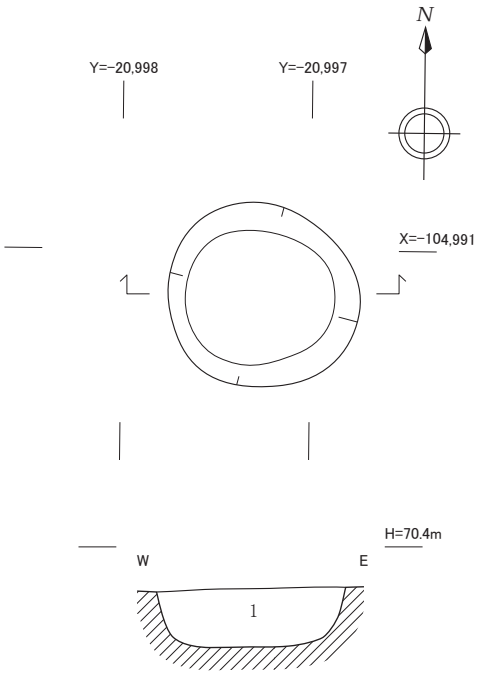
調査区北壁・西壁・南壁断面図（1：100）

図版2



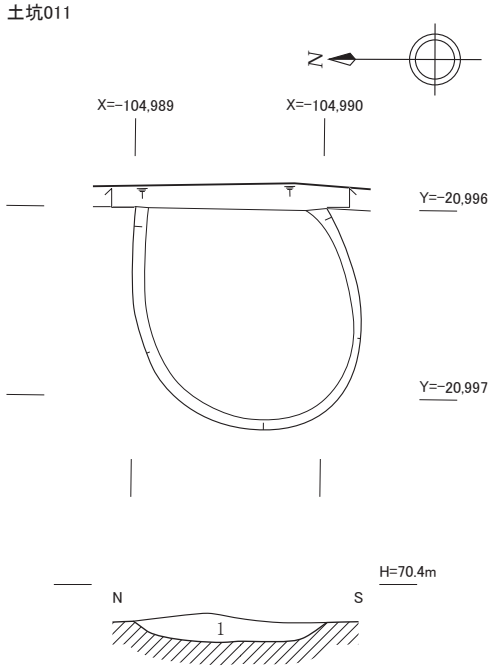

第１面平面図（１：150）

土坑010



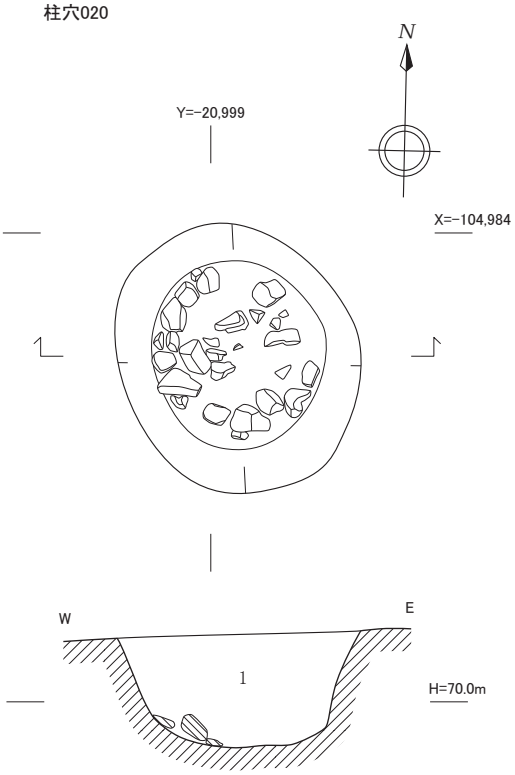

1　10YR4/4褐色粘質シルト　礫・遺物含

土坑011




1　7.5YR3/1黒褐色粘質シルトと
10YR5/2にぶい黄褐色粘質シルトとの混り
小石・遺物含

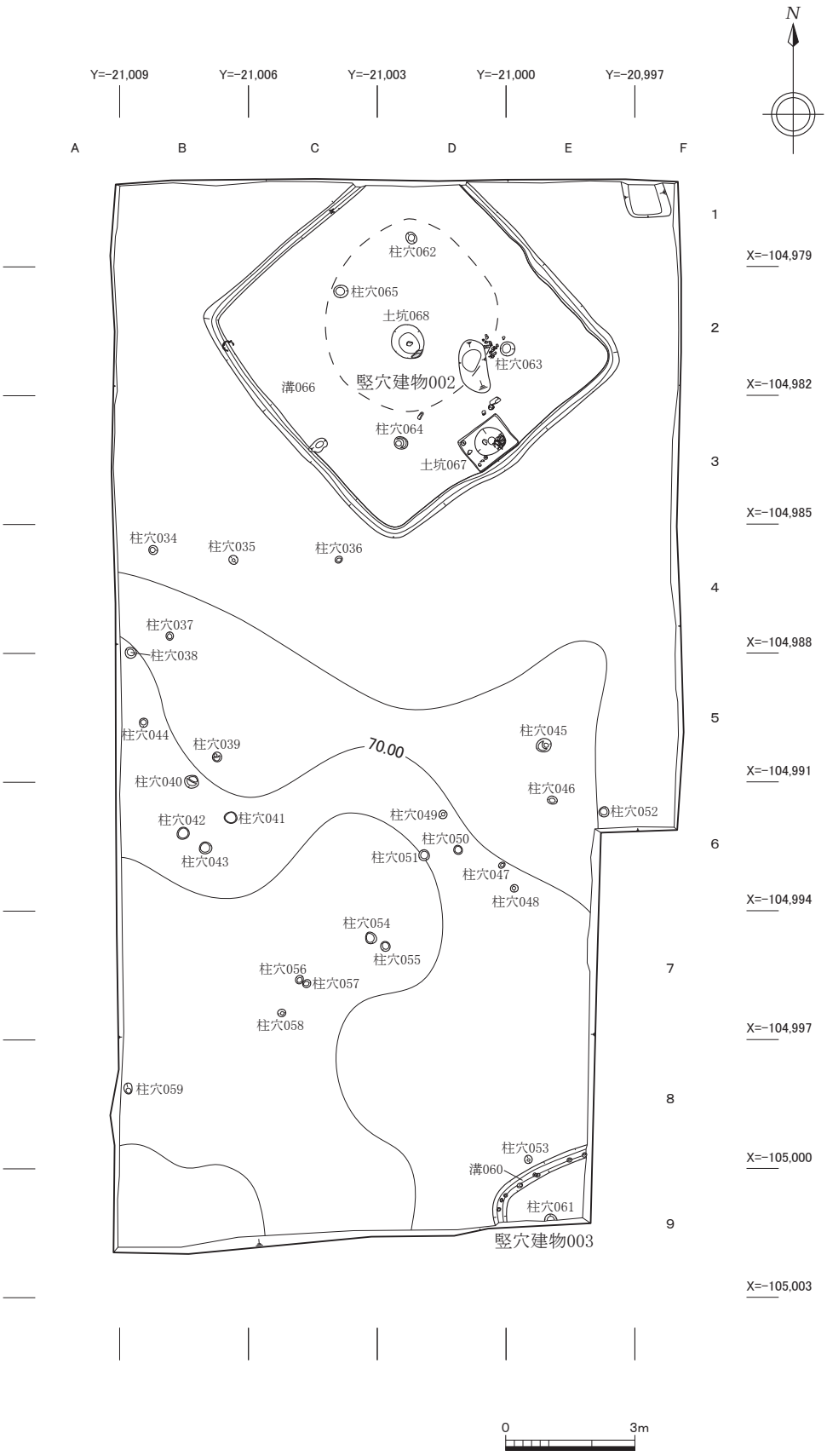
柱穴020



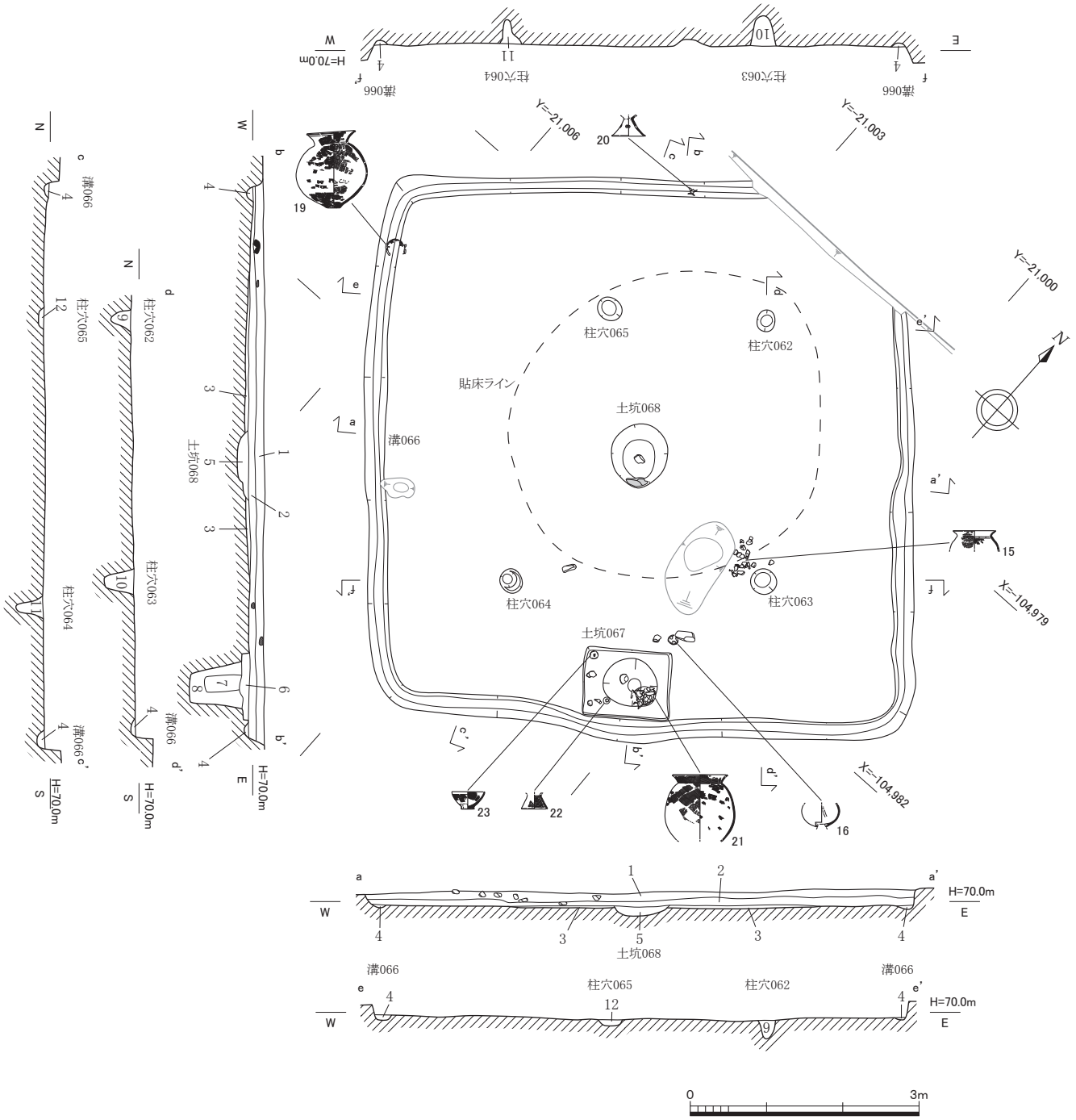

1　7.5YR4/1褐灰色粘質シルト　小石・遺物含

土坑010・011、柱穴020平面・断面図（1：40）

図版4



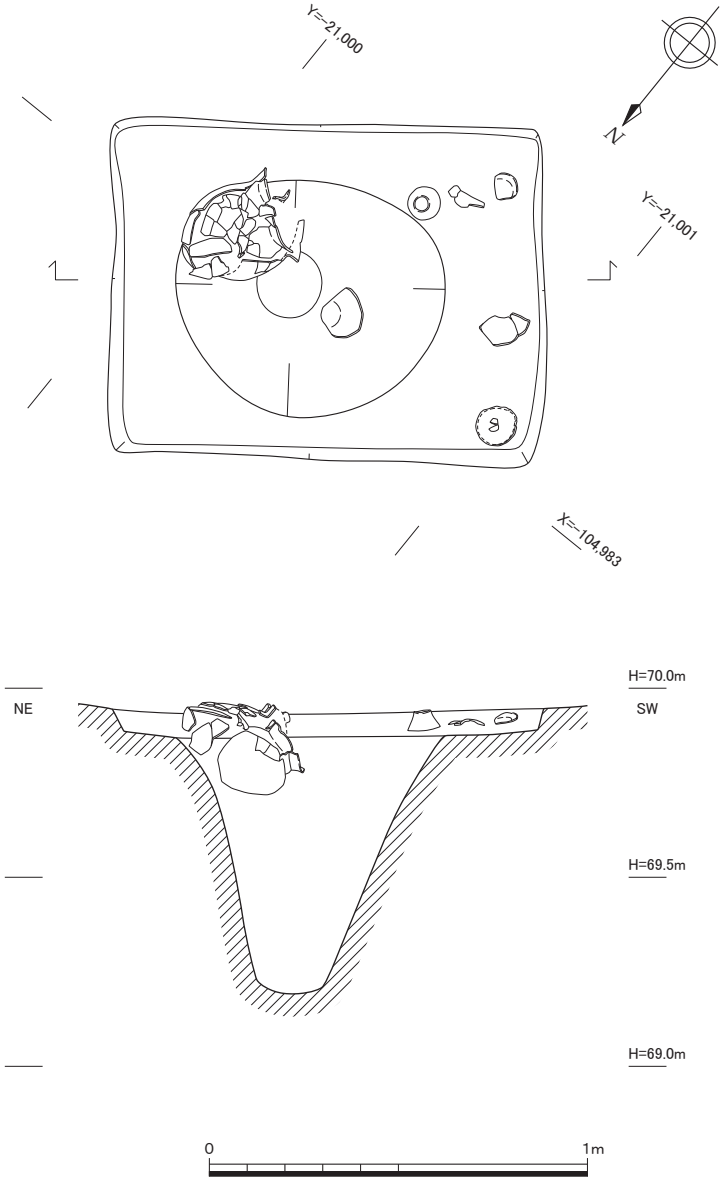

第２面平面図（1:150）



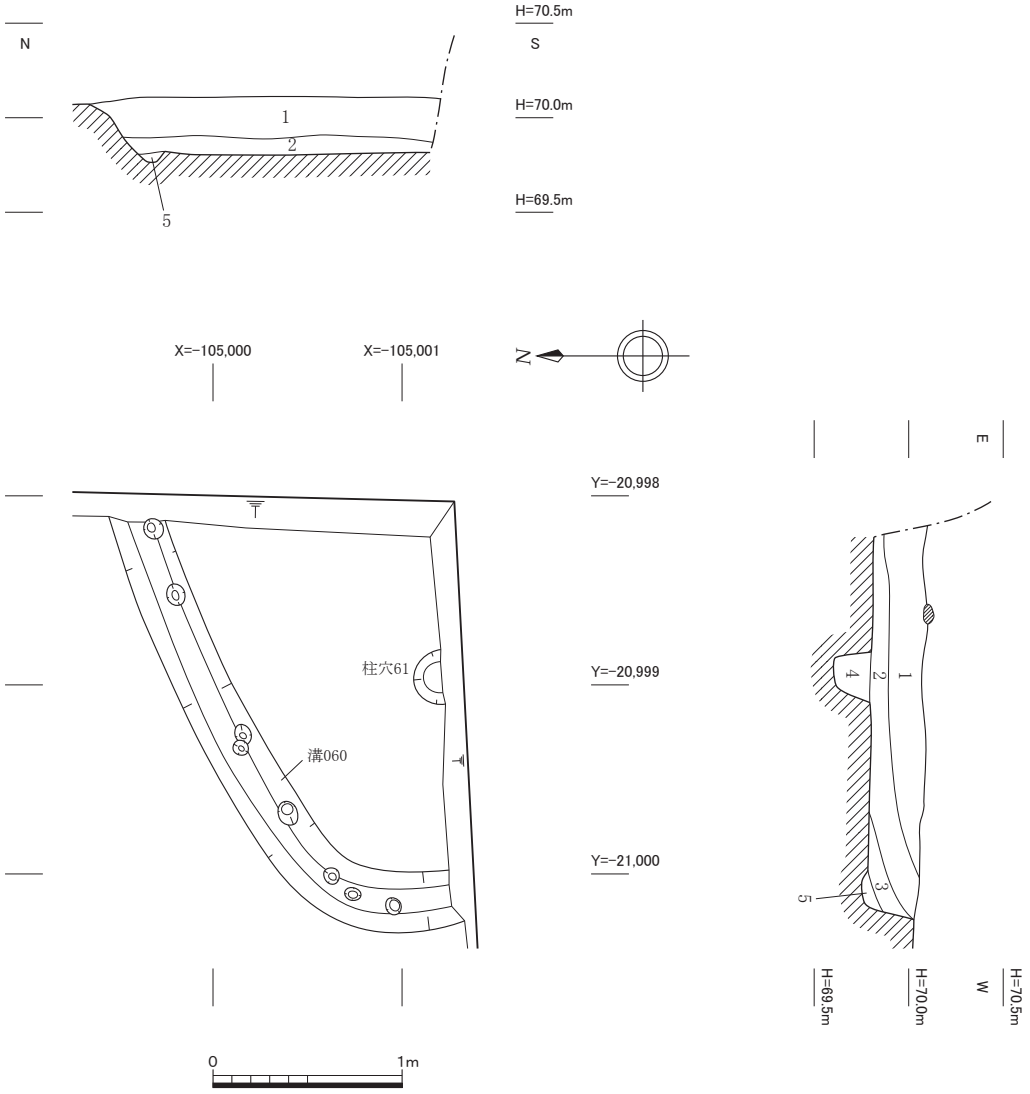

1　7.5YR4/2灰褐色粘質シルト　7.5YR5/8明赤褐色シルトブロック含　西側にφ10cm大の礫多量含　全体的に遺物多量含［埋土上層］
2　7.5YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR5/6明赤褐色シルトブロック・小石含　遺物多量含［埋土下層］
3　10YR3/2黒褐色粘質シルト　7.5YR5/6明褐色シルトブロック含［貼床］
4　10YR2/2黒褐色粘質シルト　小石含［溝066］壁溝
5　5YR3/2黒褐色粘質シルト　2.5Y4/6赤褐色焼土ブロック含［土坑068］炉跡
6　7.5YR3/2黒褐色粘質シルト　小石・遺物含
7　10YR3/2黒褐色粘質シルト　小石・炭化物含
8　10YR2/2黒褐色粘質シルト　礫・遺物（一個体か）・炭化物含［埋納穴か？］
［土坑067］貯蔵穴
9　10YR3/2黒褐色粘質シルト［柱穴062］
10　10YR3/2黒褐色粘質シルト　小石・遺物含［柱穴063］
11　10YR3/2黒褐色粘質シルト　遺物含［柱穴064］
12　10YR3/2黒褐色粘質シルト　遺物含［柱穴065］

竪穴建物002平面・断面図（1：80）

図版6



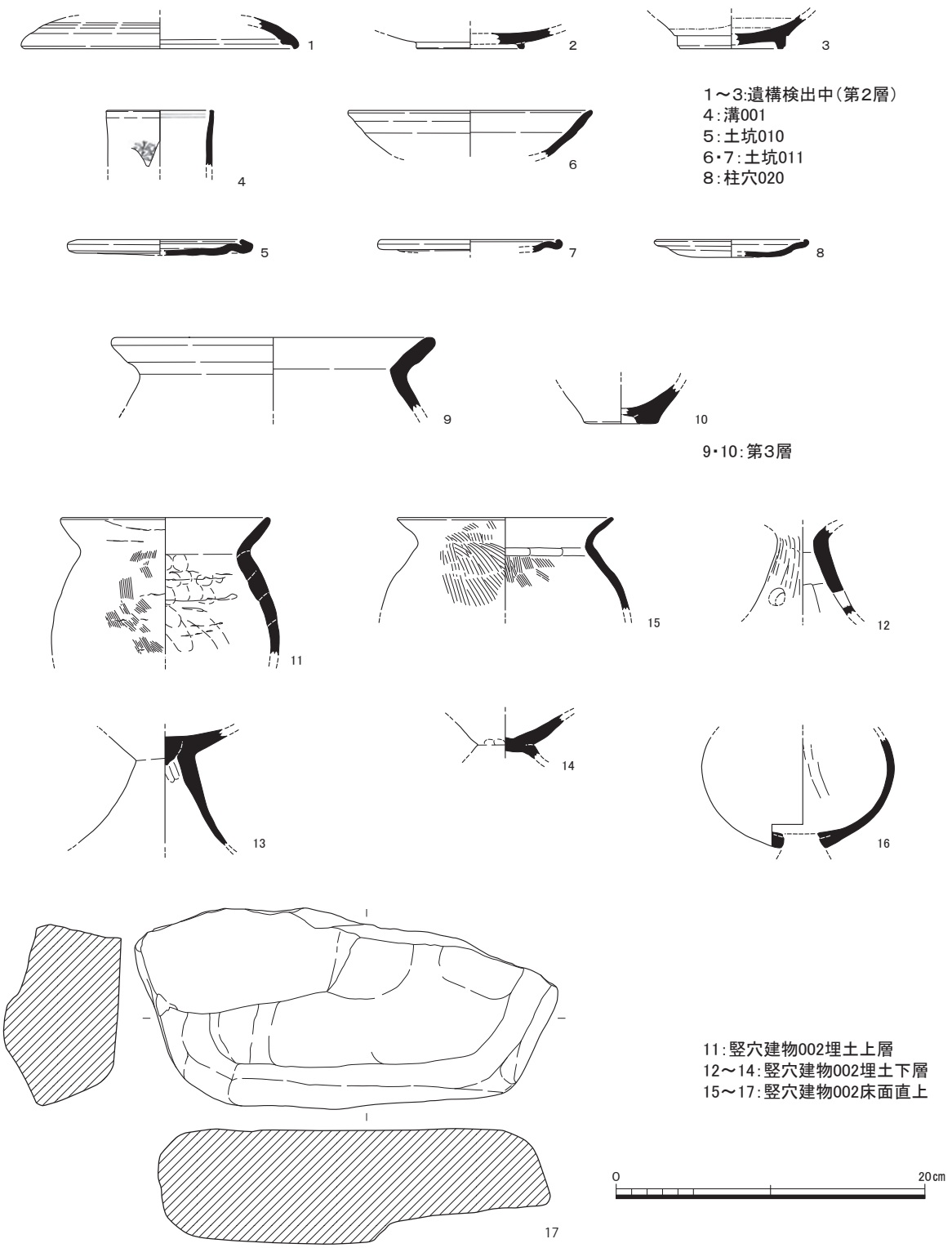

土坑067平面・立面図（1：20）



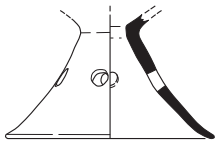

1　10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR5/6黄褐色シルトブロック・遺物少量含
2　10YR3/2黒褐色粘質シルト　小石含
3　10YR2/3黒褐色粘質シルト　小石含
4　10YR2/2黒褐色粘質シルト　遺物含［柱穴061］
5　10YR3/2黒褐色粘質シルト［溝060］

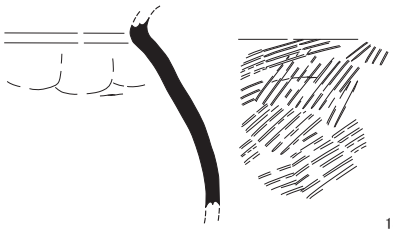
竪穴建物003平面・断面図（1：40）

図版8

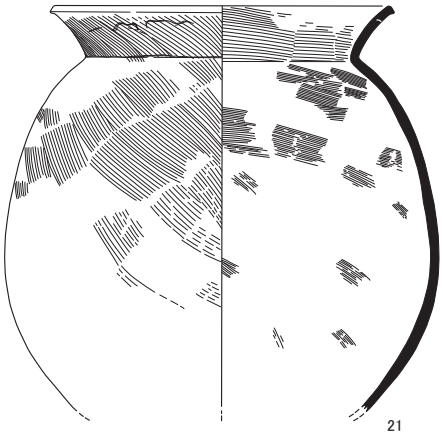

1～3:遺構検出中（第2層）
4：溝001
5：土坑010
6・7：土坑011
8：柱穴020
9・10：第3層
11：竪穴建物002埋土上層
12～14：竪穴建物002埋土下層
15～17：竪穴建物002床面直上
0
20cm

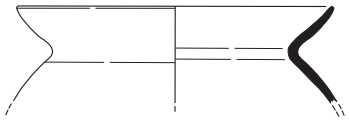
出土遺物１（１：４）

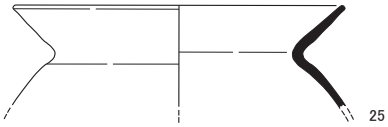


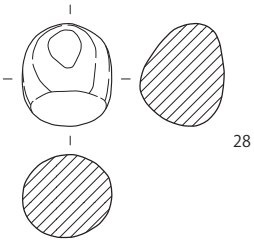
18:柱穴063(竪穴建物002)
19・20:溝066(竪穴建物002)

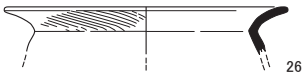





21～25:土坑067(竪穴建物002)






26:竪穴建物003埋土上層
27・28:竪穴建物0036埋土下層

出土遺物２（１：４）

1．第１面全景（南から）

2．第１面全景（北から）

1．第１面全景（上が東）

2．土坑010半裁状況（南から）

1．土坑011完掘状況（西から）

2．柱穴020根石検出状況（南から）

1．第２面全景（南から）

2．第２面全景（北から）

1．第２面全景（上が東）

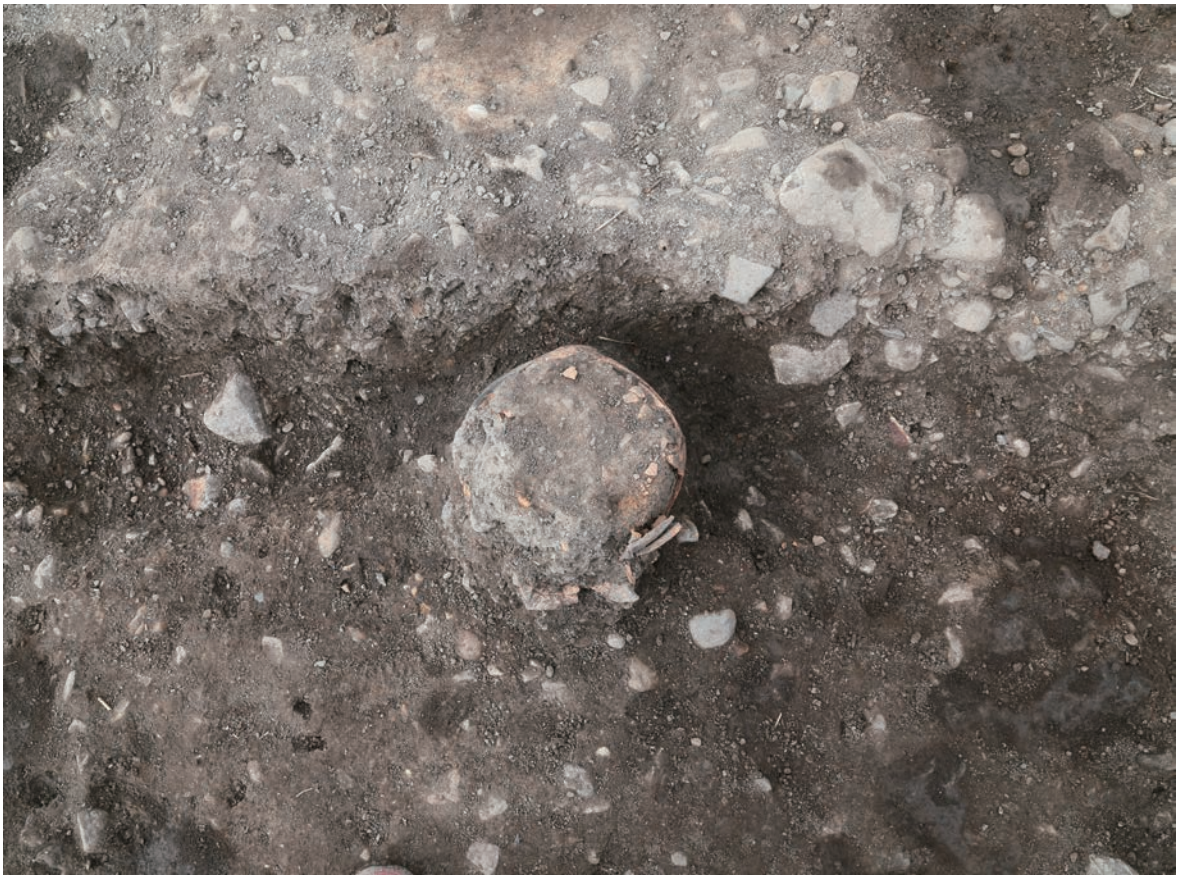
2．竪穴建物002全景（上が北）

1．竪穴建物002全景（南から）

2．竪穴建物002全景（北西から）

1．竪穴建物002内土坑067遺物出土状況（南西から）

2．竪穴建物002内土坑067遺物出土状況（北西から）



1． 竪穴建物002内溝066遺物出土状況（北東から）

2．竪穴建物002内溝066遺物出土状況（南東から）

1．　竪穴建物003全景（北から）

2．竪穴建物003全景（上が北）

1．第１面　遺構検出中、溝001、土坑010・011、柱穴020、
第３層出土遺物（土師器・須恵器・灰釉陶器・輸入白磁・染付）

2．第２面　竪穴建物002埋土、柱穴063、溝066出土遺物（土師器・石製品）

1．第２面　土坑067出土遺物（土師器）

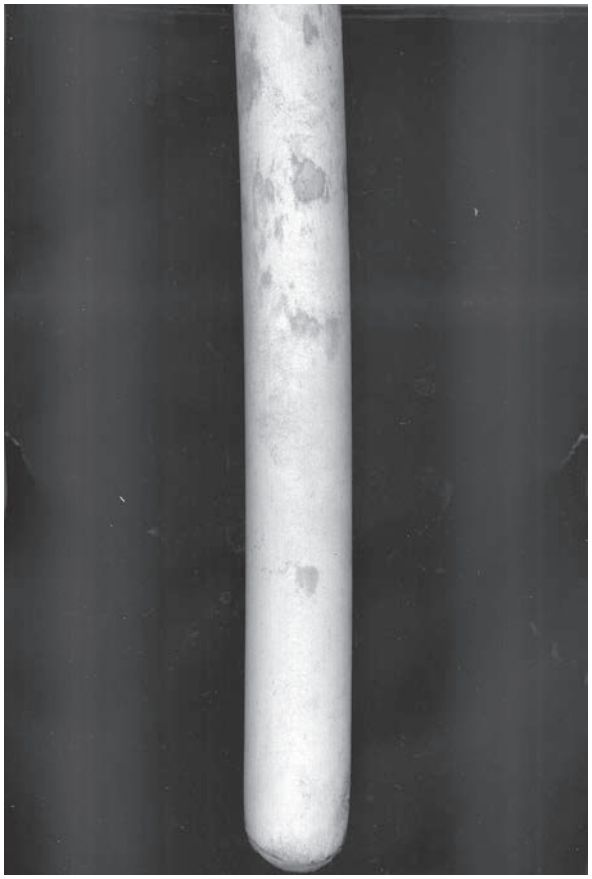
2．第２面　竪穴建物003埋土出土遺物（土師器・石製品）

1．耕作土出土遺物（脇差刀身・ハバキ・鞘）

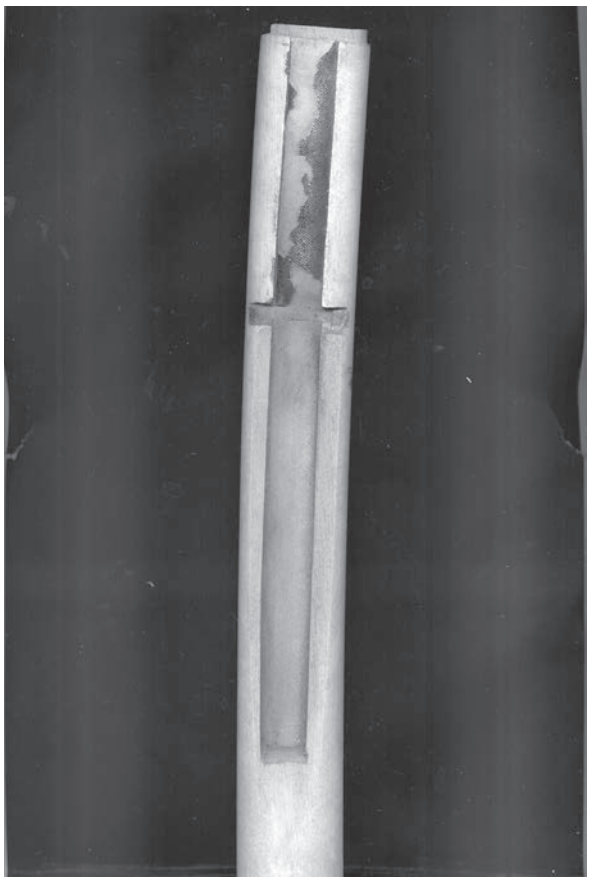
2．耕作土出土遺物（鍔）

3．耕作土出土遺物（縁金・切羽）

1. 鞘赤外線スキャン画像１『□秀□』



2. 鞘赤外線スキャン画像２



3. 鞘赤外線スキャン画像３

4. 鞘赤外線スキャン画像４

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | しょくぶつえんきたいせきはっくつちょうさほうこくしょ |
| 書　　名 | 植物園北遺跡発掘調査報告書 |
| シリーズ名 | 文化財サービス発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第32集 |
| 編著者名 | 田邉貴教　野地ますみ　興梠千春 |
| 編集機関 | 株式会社 文化財サービス |
| 所在地 | 〒601-8127 京都市南区上鳥羽北花名町８番地 |
| 発行所 | 株式会社 文化財サービス |
| 発行年月日 | 2024年6月30日 |

| 所収遺跡名 | 所　在　地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 植物園北遺跡（しょくぶつえんきたいせき） | 京都市左京区（きょうとしさきょうく）下鴨北芝町（しもがもきたしばちょう）13、25番地（ばんち） | 26100 | 146 | 35度03分12秒 | 135度46分11秒 | 2024年2月16日～2024年3月29日 | 294 ㎡ | 共同住宅建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 植物園北遺跡 | 集落跡 | 江戸時代 | 溝 | 染付 | 古墳時代初期（庄内式期）の竪穴建物２棟と柱穴群を検出した。竪穴建物は１棟が方形、１棟が多角形である。方形の竪穴建物は西に約45°の傾きがある。竪穴建物の廃絶後に整地を行い、柱穴が掘られるが、建物としての復元はできなかった。平安時代後期～末期に柱穴と土坑が掘られる。江戸時代以降に耕作地としての床土が盛られ、田畑の区画と思われる南北溝が掘られる。 |
| | | 平安時代後期～末期 | 土坑、柱穴 | 土師器 | |
| | | 古墳時代前期以降 | 柱穴、包含層 | 土師器 | |
| | | 古墳時代初期 | 竪穴建物、柱穴 | 土師器、石製品 | |

文化財サービス発掘調査報告書 第32集

植物園北遺跡発掘調査報告書

発行日　2024年６月30日

株式会社　文化財サービス
編　集　〒601-8127 京都市南区上鳥羽北花名町８番地
TEL 075-672-6800

三星商事印刷株式会社
印　刷　〒602-8358 京都市上京区七本松通下長者町下る三番町273
TEL 075-467-5151